

平成30年度 文部科学省委託事業
「障害者の多様な学習活動を総合的に
支援するための実践研究」報告書

平成31年3月

大阪府福祉部障がい福祉室自立支援課

目次

1. 大阪府における「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」の目的及び方向性について

2. 大阪府における「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」の概要について
 - (1) 支援学校卒業後の「学びの場」について
 - (2) 障がい者の多様な学びの場について
 - (3) 連絡協議会について

3. 大阪府における今後の取組みの方向性について
 - (1) 「卒業後の「学びの場」の情報公表の仕組みについて
 - (2) 国への提案について

平成30年度文部科学省委託事業「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」について

1. 大阪府における「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」の目的及び方向性について

知的障がいのある者の進学率が低く、また、卒業後間もない者の離職率は高いとされる。このため、卒業後、すぐに就労せず、一旦、「学びの場」でさらなる成長をする場が重要となっている。

これらを踏まえ、大阪府として、「支援学校卒業後の「学びの場」の確保方策を検討するため、保護者ニーズを確認し、先進的取組みであるエルズ・カレッジおおさかの検証を行ったほか、障がい者文化芸術・スポーツの中核拠点である「ビッグ・アイ」・「ファインプラザ大阪」のノウハウを活かし、卒業後の多様な「学びの場」に係るプログラムの開発・検証を行った。

併せて、これら取組みをより効率的・効果的に実施するため、「障がい者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究連絡協議会」（以下「連絡協議会」という。）を設置、運営した。

【参考】

○文科省調査（H29年度学校基本調査）（抜粋）

知的障がいのある生徒の高等部卒業後の大学・短大・高等部専攻科※等への進学率：0.4%（全体の進学率：56.8%）

※府では、知的障がいのある生徒を対象とした高等部専攻科は、なし（今後の設置予定もなし）。

○府障がい者施策推進協議会（第43回、平成30年1月17日）

関川委員（府立大教授）意見：支援学校卒業後の生涯学習機会の充実が課題。

○連絡協議会

- ・（一財）エル・チャレンジL's College おおさか校長 辻 行雄（委員長）
- ・国際障害者交流センタービッグ・アイアートエグゼクティブプロデューサー 鈴木 京子
- ・大阪府障がい者スポーツ協会事務局長 宮村 誠一
- ・大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類准教授 三田 優子
- ・桃山学院大学名誉教授 石田 易司
- ・大阪府福祉部障がい福祉室自立支援課長 黒瀬 康範
- ・大阪府教育庁教育振興室支援教育課長 柴田 尚彦

2. 大阪府における「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」の概要について

(1) 支援学校卒業後の「学びの場」について

■特別支援学校3年生の保護者アンケート

○アンケート概要

(調査目的) 卒業後の進路等に係る保護者ニーズの確認

(調査対象) 府立特別支援学校(知的障がい、21校)の高等部3年生の保護者(職業学科のある高等支援学校を除く)、904名

(回答状況) 386名(43%)

○アンケート結果概要

①「卒業後の進路」について

➤8割近い保護者が「就労以外」と回答。

②「卒業後の「学びの場」の情報不足」について

➤8割を超える保護者が「よく知らない」等と回答。

③「卒業後の「学びの場」への期待」について

➤「学びの場」への期待や「生徒本人にとって卒業後、社会人として必要な力」の回答は、多様。

■エルズ・カレッジおおさかアンケート

○アンケート概要

(調査目的) エルズ・カレッジおおさかの検証

(調査対象) ①エルカレ在籍者の保護者:42名、②修了生の保護者:30名、在籍者:43名

(回答状況) ①42名②26名③43名

○アンケート結果概要

➤在籍者の保護者のほぼ全員、修了者の保護者の9割弱が「満足」、在籍者の7割強が「楽しい」と回答。内容や質に特段問題なし。

➤エルズ・カレッジおおさかの特徴は以下のとおり。

- ・国語・数学等の「授業」「時間割」の設定、「学習評価」の実施
- ・「学年」という考え方や「年間行事」「校外学習」の導入
- ・「教員免許所持者」等の複数配置

➤「指定障がい者サービス(自立訓練)」を活用した取組みであることから、いわゆる通学期間が2年に制約されるという課題あり。

※このため、「エルズ・カレッジおおさかプラス(指定障がい者サービス(就労移行支援、2年間))を組み合わせ。

■府立大学との連携について

○取組み概要

- ・府立大学大学祭（平成30年10月27日）におけるエルズ・カレッジ大阪在籍者の作品展示、団体演技、模擬店への協力・運営。
- ・大阪府立大学オープンカレッジの取組みに係る連絡協議会における検証等。

○取組み結果概要

- ・府立大生とエルカレ在籍者との交流が生まれるなど連携の有効性を確認。
- ・大阪府立大学オープンカレッジについては、以下の状況を確認。

- ・1998年に大阪府立大学でスタートし、現在までに、約140名の卒業生を輩出。これまで、知的障がい者のみならず、精神障がい者や肢体不自由など、さまざまな障がいのある人が入学。
- ・運営スタッフは、無償ボランティアで、他の大学や府立大の卒業生もいる。この2～3年間は、大学が事務的なことにかかわっている。
- ・在学期間は2年間であり、卒業後の再入学はなし。広く広報しており、口コミをふくめ、たくさんの希望者があいるため、入学者を抽選で決定。入学が決定した人に、面接を実施し、注意事項（配慮すべきこと）を確認。
- ・月に1～2日の土日に授業を開催（90分）、1学年は25名程度。10歳代から60歳代までの学生が在籍。
- ・学生の要望にそった講義の開催をめざしており、中身については、学生の希望をこまやかに聞いて、視覚に訴えるような、内容を工夫している。
- ・座学（選挙のしくみ）や体を動かす、調理する、修学旅行もあり。
- ・何か月に1回は、保護者会（保護者の要望を聞く）。オープンカレッジの取組み、成果を語る催しも開催。
- ・卒業生の答辞で、「スタッフである人が、自分たちを学生として尊重した。これが自信になった。府大の図書館が使えた。学食が使えた。」という声があった。
- ・学生にとっても非常に成長できる場であり、もっとこのような取組みが、他大学でも増えてほしいが、府立大において、学生のスタッフの集まる力が弱まっている課題あり。

（2）障がい者の多様な学びの場について

■取組み概要

○文化芸術プログラム

参加者全員で一つの大きな作品（「ずっと住みたいと思う街をつくる」がテーマ）を制作することを目標とし、参加者が小さな作品を組み合わせる経験、人が描いた作品の上には書かないなどのルールを守るなど、連帯や交流がみられた。

（講師等） 専門家：6名、ボランティアスタッフ6名。

(参加者) 39名(うち事前申し込みのあった障がい者14名)

○スポーツプログラム

『からだを知ろう!動かそう!いろんな体験をしてみよう!』をテーマに、からだづくり運動を実施。参加者同士が交流できるよう工夫されたプログラムを通じて、自身の体の状態への気付きや、ルールを守りながら仲間と交流する楽しさを味わった。

(講師等) 専門家:5名、ボランティアスタッフ14名。

(参加者) 参加者26名(内障がいのある人18名)

■取組み結果概要

- ・今回の取組みにより、支援学校卒業後間もない者を主な対象としながら、障がいのある人・ない人の交流の場の側面も持たせつつ、有効なプログラムの開発を行うことができた。
- ・今後、本プログラムをモデルとして、他の機関で同様のプログラム実施を普及促進していくことが有効。
- ・なお、他機関への普及促進や継続的なプログラム展開には、相当の人材・資金が必要であり、この点、国による制度的な支援が不可欠である。

(3) 連絡協議会について

■第1回連絡協議会

(議題) 「障がい者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」の取組みの目的等について

(日時) 平成30年9月5日(月)10:30~12:00

(場所) 大阪府本館5階 議会特別会議室(小)

(議事概要) 以下のとおり。

- ・障がい者文化・芸術活動の場を希望する人は多いが、活動の場は、府内に数か所しかなく、また、支援人材も不足している。
- ・障がい者スポーツについて、高齢化が進んでおり、若年層の参加を増やす工夫が必要。
- ・府立大学の取組みについて、全国にオープンカレッジのような取組みをしている大学はあるが、増えていない状況。その理由として、成果が見にくい、人が集まらないなどが考えられる。
- ・障がいのある人たちが本当の意味での社会参加をできる、準備できる場があることがとても重要である。

■第2回連絡協議会

(議題) 「障がい者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」事業報告について

(日時) 平成31年2月6日(水)13:30~15:00

(場所) 大阪府庁新別館北館1階 会議室兼防災活動スペース3

(議事概要) 以下のとおり。

- ・障がいのある人本人へのアプローチが重要。本人の意見を受け止めて、それを「学び」のプログラムに反映させることで、本人がより一層の理解を深め、効果的な「学び」となるのではないかと。本人の意見を聞き、反映させることがとても重要。
- ・大学は、訓練の場ではなく、自分で考え迷いながら意思決定をする場。支援学校卒業後の「学び」についても、本人が悩み、成長していくための揺れの幅を受け止められる取組み、プログラムとなることが望ましい。
- ・保護者向けの「学び」の情報不足は、大きな課題。今後、情報の公開について、障がいのある人本人への情報提供も含め、具体化することが必須。
- ・エルズ・カレッジでは、自立訓練を活用した2年の「学び」の後、就労継続B型を活用したエルズ・カレッジプラスの2年の「学び」を提供している。しかし、より充実した「学び」とするためには、自立訓練の期間を2年から延長ができる仕組み、例えば、構造改革特区の活用も検討すべき。
- ・文化芸術・スポーツプログラムについて、障がいのある人とない人の参加があり、障がいのある人とない人が交流する場となったため、大変良い取組みとなった。今後、このような取組みが増えることを期待。

3. 大阪府における今後の取組みの方向性について

(1) 「卒業後の「学びの場」の情報公表の仕組みについて

- 「卒業後の「学びの場」について、報告を通じて得られた取組み項目の情報を公表する仕組みを整えることにより、進路としての選択に資する。
- 原則として、「指定障がい者サービス」であることを要件とする。公表を求める項目は、次のとおり。府HP等で公表。
 - ・理念等
 - ・カリキュラム等（年間計画、時間割、到達目標、到達状況の評価等）
 - ・職員配置状況（人数・体制・役割・資格等）
 - ・保護者・生徒の参画・交流
 - ・進路の状況
- すべての項目について情報公表可能な取組みを実施している場合は、いわゆる「卒業証書」への府としてのクレジット表記等を認める。表記方法等は、別途検討していく。

(2) 国への提案について

- 「情報公表の仕組み」において、すべての項目について情報公表可能な取組みを実施している場合等は、「自立訓練」などの期間を延長できる仕組みなどの構築を国に求めていく。
- 「障がい者の多様な学びの場」に係るプログラムの普及促進や継続的展開のための国による支援制度などを求めていく。

平成30年度 文部科学省委託事業
「障害者の多様な学習活動を総合的に
支援するための実践研究」報告書
－「学びの場」づくり編－

平成31年3月
一般社団法人 エル・チャレンジ
L' s College おおさか

はじめに

I. 調査の目的及び調査対象

II. 調査方法

III. アンケート調査結果

i - i. 特別支援学校高等部3年生の保護者アンケート

- i. 調査対象者の障がい状況
- ii. 卒業後の進路について
- iii. 進路決定のポイント
- iv. 支援学校卒業後の「学びの場」の認知度
- v. 進路先としての「学びの場」に期待すること
- vi. 社会人として必要だと思う力
- vii. まとめ

IV. アンケート調査から見える保護者のニーズ

ii - i. 在籍者 保護者アンケート結果

- i. L' s College おおさかを知った理由
- ii. L' s College おおさかへの入学の決め手
- iii. L' s College おおさかへの満足度
- iv. L' s College おおさかを楽しめているか
- v. L' s College おおさかに期待すること
- vi. L' s College おおさかで期待する行事
- vii. 社会に出るにあたって成長を期待する力

ii - ii. 修了者 保護者アンケート調査結果

- i. L' s College おおさかを知った理由
- ii. L' s College おおさかへの入学の決め手
- iii. L' s College おおさかに通っていた様子
- iv. L' s College おおさかへの満足度
- v. L' s College おおさかの不足していた点
- vi. L' s College おおさかの良かった点
- vii. L' s College おおさかの良かった行事
- VIII. L' s College おおさかの不足していた行事
- ix. L' s College おおさかの2年間で成長を感じられたか
- X. L' s College おおさかで成長したと思うところは

ii - iii. 在籍者 アンケート調査結果

- i. L' s College おおさかの楽しさ

- ii. L' s College おおさかを休みたくなる日
- iii. L' s College おおさかで仲の良い友人
- iv. L' s College おおさかの授業の分かりやすさ
- v. L' s College おおさかの授業の役立ち度
- vi. L' s College おおさかの職員の在籍者への理解
- vii. L' s College おおさかで困ったことや悩んだことがある場合
- viii. L' s College おおさかで社会に必要なルールやマナーを教えてくれるか
- ix. L' s College おおさかで好きな教科
- X. L' s College おおさかで苦手な教科
- xi. L' s College おおさかにきて初めての挑戦
- xii. L' s College おおさかで楽しみな行事

V-I. L' s College おおさかの取り組み

- i. L' s College おおさかの位置づけ
- ii. L' s College おおさかの「学び」
- iii. L' s College おおさかの目的
- iv. L' s College おおさかのプログラム

V-II. L' s College おおさかの週間プログラム

- i. 週間プログラム
- ii. 「学び」の体制について

V-III. L' s College おおさかの年間行事

- i. 1年めの行事
- ii. 2年めの行事

V-IV. L' s College おおさかの体験的な「学び」

- i. 教科体験的な「学び」
- ii. 校外学習

V-V. 大学交流プログラム

大阪府立大学羽曳野キャンパスでの交流

V-VI. L' s College おおさかの学習評価

V-VII. L' s College おおさか修了者の進路状況について

V-VIII. 職員体制について

- i. 職員配置体制について

- ii. 各職員の役割について
- iii. 教員等に求められる経験やスキル
- iv. 職員間の連携について
- V. 人事評価について

V-IX. L' s College おおさかにおける「学び」を継続させるために必要であると考えられる条件設定について

- i. 「学び」の評価等と公開の実施
- ii. 在籍者並びに保護者の意見の公開
- iii. 実施プログラムについて
 - iii-i. 週間プログラムについて
 - iii-ii. 年間行事について
- iv. 緊急対応の公開
- v. 職員研修等の体制

V-X. L' s College のめざす4年間の「学び」

- i. L' s College (L' s College おおさか・L' s College Plus)設立の背景
- ii. L' s College おおさかにおける2年間の目標
- iii. L' s College Plus における2年間の目標

V-XI. L' s College おおさかの今後の課題

- i. L' s College おおさかの現状
- ii. L' s College おおさかの課題

VI. 平成30年度「障がい者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」－支援学校卒業後の多様な学習活動等の場づくりプロジェクト（エルズ・カレッジおおさかと府立大学との連携）－

VII. まとめ

別添1 平成30年度 文部科学省委託事業「障がい者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」保護者アンケート

別添2 在籍者保護者アンケート調査

別添3 修了者保護者アンケート調査

別添4 在籍者アンケート調査

はじめに

2011年の「文部科学省学校基本調査」では、特別支援学校の高等部、特に知的障がい支援学校における進学率は、全国平均で大学等の進学が0.5%、専修学校が0.1%になっています。

「平成29年度大阪の支援教育」では、知的障がい支援学校における進学率は0%であり、厚生労働省管轄の障害者職業能力開発校が3%となっています。また、知的障がい支援学校高等部生徒の卒業後の選択肢は、就職率が26%、障がい者支援施設が65%となります。

我々、L's College おおさかを運営する一般社団法人エル・チャレンジが組合員である大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合では、大阪府の取り組む「行政の福祉化」の一環として、府有施設等の清掃を通じた職業訓練を行い、これまでに700名以上の障がいのある人の就職等を支援してきました。700名の多くは、卒業後、一度は就労したものの、様々な理由でうまくいかず、離職してしまった人たちです。

平成26年2月に批准した「障害者の権利に関する条約」において、

第二十四条 教育

- 1 締約国は教育についての障害者の権利を認める。締約国は、この権利を差別なしに、かつ、機会の均等を基礎として実現するため、障害者を抱擁するあらゆる段階の教育制度及び生涯学習を確保する。(以下略)
- 5 締約国は、障害者が、差別なしに、かつ、他の者との平等を基礎として、一般的な高等教育、職業訓練、成人教育及び生涯教育を享受することができることを確保する。このため、締約国は、合理的配慮が障害者に提供されることを確保する。

また、教育基本法には、

第三条 国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現を図らねばならない。

第十二条 個人の要望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によって奨励されなければならない。

と規定されています。

特別支援学校における職業教育は、経済的な自立を図る上で極めて重要ですが、特別支援学校卒業後に就職した者が、離職してしまうケースもあります。また、障害者権利条約などの規定から、卒業後の進路の幅を広げ、障がいの有無にかかわらず、生涯にわたって学び続けられる環境づくりが重要です。

こうしたことから、私たちL's College おおさかも、卒業後すぐに就労するのではなく、就労前のコミュニケーションやモチベーション維持などの力を養う期間の重要性を痛感していました。そこで、そのような力を育む場として、障害者総合支援法に基づく自立訓練(生活訓練)を活用した「学びの場」として、L's College おおさかを平成27年に設置することとしました。

「学びの場」とは、いわば「知的障がい者のための大学」です。現在は、自立訓練を活用したL's College おおさかの2年間と、就労継続支援B型の2年間で活用したL's College Plusでの4年体制としています。

今回の事業を通じて、「学びの場」全般に関する保護者の考えや、L's College おおさかに関する保護者や在籍者の考えをアンケートにより把握し、L's College おおさかの取り組みをオープンリソース

化するとともに、アンケート結果を踏まえた検証を重ねることで、より多くの関係機関において、L' s College おおさかのような「学びの場」に係る取り組みを促進することのできる環境づくりの一助としたいと考えています。

本報告書が、より多くの知的障がいのある方々にとって、進路の選択肢が広がるきっかけになることを願います。

★ アンケート調査について

I. 調査の目的及び調査対象

本調査では、下記の者を対象としたアンケートを行うことにより、「学びの場」全般に関する保護者の考えや、L' s College おおさかに関する保護者や在籍者の考えをアンケートにより把握し、L' s College おおさかの取組みをオープンリソース化するとともに、アンケート結果を踏まえた検証を重ねることで、より多くの関係機関において、L' s College おおさかのような「学びの場」に係る取り組みを促進することのできる環境づくりの一助とする。

- ① 大阪府内の特別支援学校（知的障がい。職業学科のある高等支援学校を除く。）高等部3年生の保護者を対象としたアンケートにより、「学びの場」に関する保護者のニーズを明らかにします。
- ② L' s College おおさかの在籍者の保護者及びL' s College おおさかの修了者の保護者を対象としたアンケート調査により、「学びの場」を選択した保護者の意識を明らかにします。
- ③ L' s College おおさかの在籍者を対象としたアンケートにより、本人の意識を明らかにします。
- ④ L' s College おおさかの取組みの詳細を明確にします。

II. 調査方法

調査方法は、多肢選択性によるアンケート調査で、質問項目は、別添1のとおりです。

III. アンケート調査結果

i - i. 特別支援学校高等部3年生の保護者アンケート

調査対象：大阪府立の知的障がい対象特別支援学校 21校

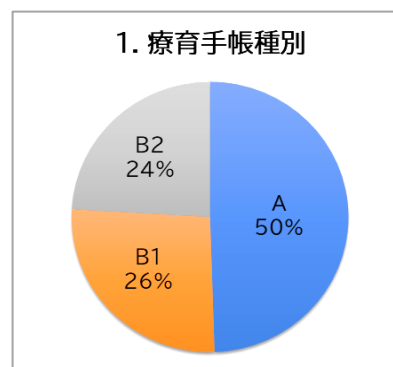
調査対象人数：904名

回収人数：386名

回答率：43%

障がい状況：療育手帳

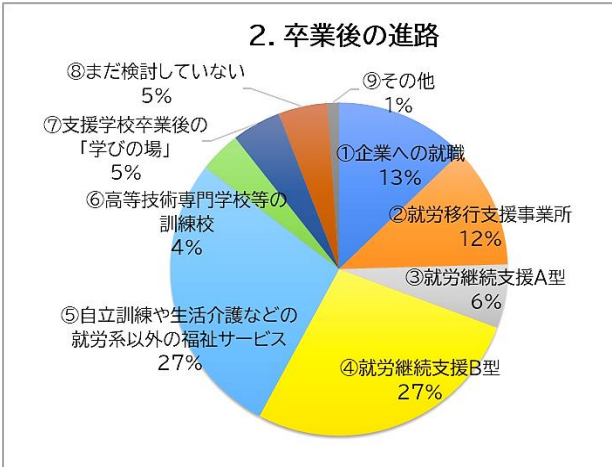
A	191人 (49%)
B1	102人 (26%)
B2	93人 (24%)



i. 調査対象者の障がい状況

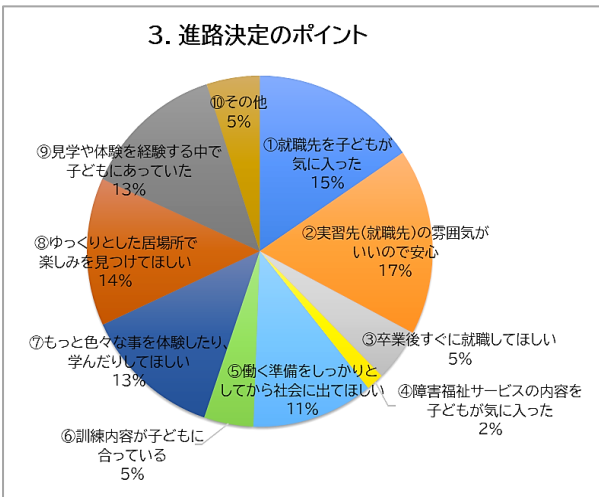
回答に占める障がいの状況については、療育手帳Aが50% (191名)、B1が26% (102名)、B2が24% (93名)と、Aの回答率が高くなりました。

ii. 卒業後の進路について



就職・就労移行支援事業所・就労継続支援A型を合わせると31% (169名)、就労継続支援B型は27% (149名)、高等技術専門学校が4% (22名)、就労系以外の自立訓練や生活介護等は、28% (152名)、「学びの場」は、5% (26名) でした。

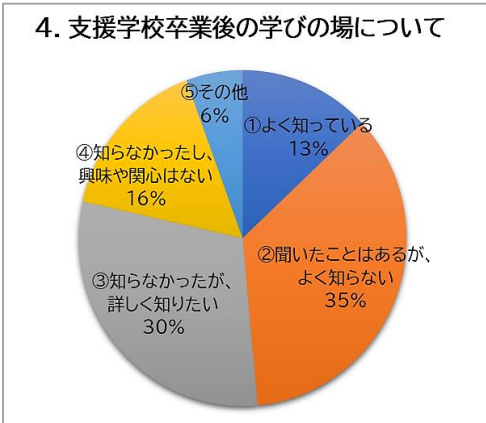
iii. 進路決定のポイント



進路決定のポイントとしては、就労を優先的なポイントとしてあげた保護者は37% (317名) となっていますが、「働く準備をしっかりとってから社会に出て欲しい」11%、「もっと色々なことを体験したり学んだりして欲しい」13%、「ゆっくりとした居場所で楽しみを見つけて欲しい」14%、を合わせると38% (320名) となっています。

これらのことから、進路として、就労と同程度に、就労前の成長の場を望む保護者の声があるとと言えます。

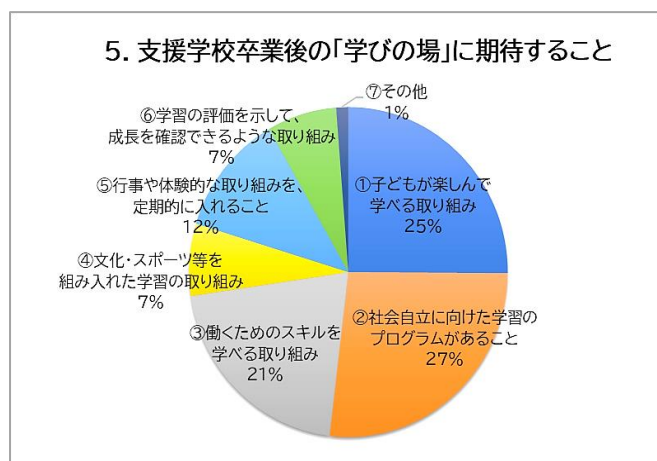
iv. 支援学校卒業後の「学びの場」の認知度



「学びの場」に関しては、知っているとの回答が13% (49名) であり、80%近くの方が、知らないという状況です。自由記述の回答では、「学習をするのにはハードルが高い」「大阪にそういった場所があるのを知らなかった」といったものがありました。

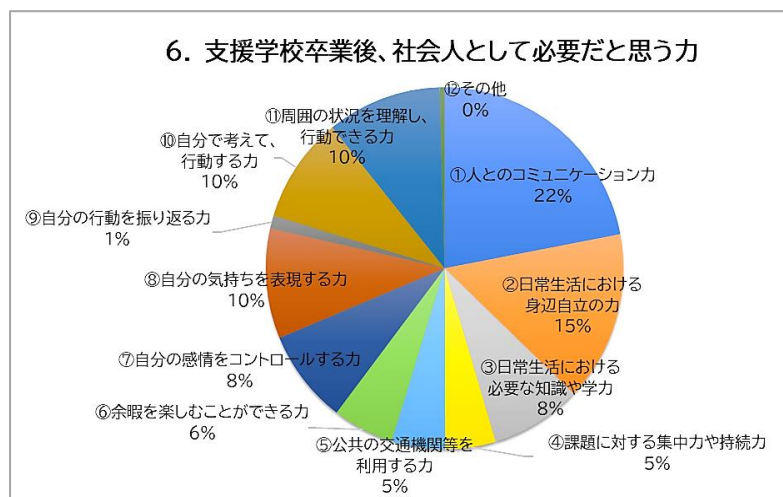
これらのことから、保護者にとっては、「学びの場」に関する情報が不足していると言えます。

v. 進路としての「学びの場」に期待すること



「学びの場」への期待に関しては、①子どもが楽しんで学べる取り組みが25%（227名）、②社会自立に向けた学習のプログラムがあることが27%（242名）、③働くためのスキルを学べる取り組みが21%（188名）、④文化・スポーツ等を組み入れた学習の取り組みが7%（64名）、⑤行事や体験的な取り組みを、定期的に入れることが12%（108名）、⑥学習の評価を示して、成長を確認できるような取り組みが7%（64名）となっています。

vi. 社会人として必要だと思う力



特別支援学校卒業後に、社会人として生活していくためには、保護者としてどのような力が必要と思うかの質問に対して、人とのコミュニケーション力が22%（246名）と最も多く、次いで身辺自立の力が15%（170名）になっています。

また、自分の気持ちを伝える力が10%（110名）、周囲の状況を理解して行動する力が同じく10%（116名）となっています。さらに、自分で考えて行動する力が9%（106名）、感情のコントロールが

8%（94名）、余暇を楽しむ力が6%（62名）、公共交通機関を利用できる力が5%（54名）、集中力や持続力が5%（51名）となっています。

これらのことから、「学びの場」への期待は、多様であることがわかります。

vii. まとめ

- ・保護者の意向としては、進路の選択肢として、就労と同程度に、就労前の成長の場を望む声があると言えます。
- ・保護者にとっては、「学びの場」に関する情報が不足していると言えます。
- ・「学びの場」への期待は、多様であることがわかります。

IV. アンケート調査から見える保護者のニーズ

i-i. 在籍者 保護者アンケート調査結果

平成30年度に在籍しているL's College おおさかの在籍者の保護者に対し、L's College おおさかに関するアンケート調査を行いました。

なお、調査対象者については以下の通りです。

対象者：L's College おおさかの在籍者の保護者

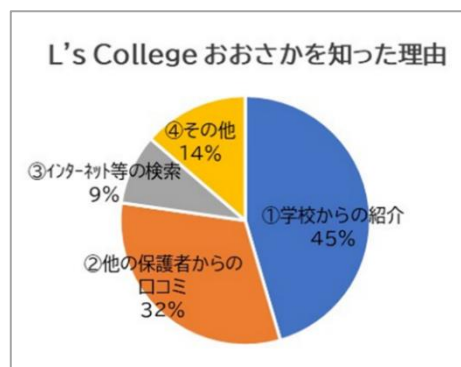
人数：42名

回答率：100%

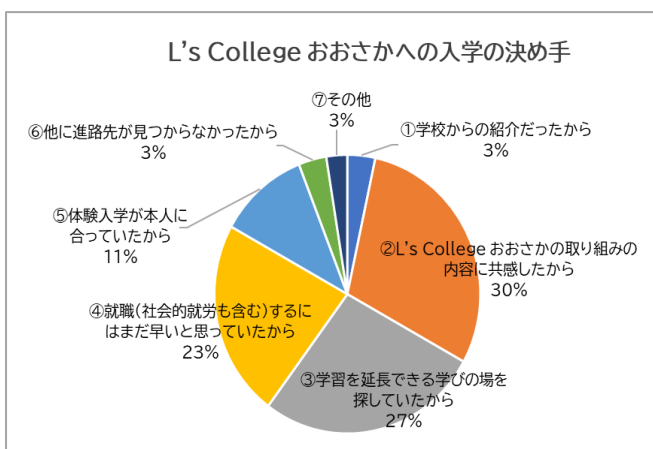
質問項目は、別添2のとおりです。

i. L's College おおさかを知った理由

保護者がどのようにしてL's College おおさかを知ったかということについて、半数近くが「学校からの紹介」と回答、32%が「口コミ」との回答でした。「インターネットでの検索」も10%割程度ありました。

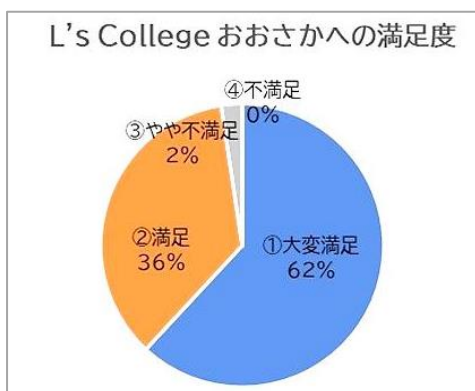


ii. L's College おおさかへの入学の決め手



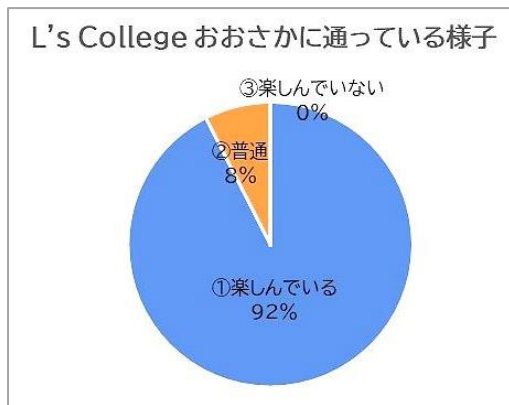
L's College おおさかへの入学の決め手は、「L's College おおさかの取り組みに共感した」が30%、次いで、「学びの場を探していた」との回答が27%でした。「就職にはまだ早いと思っていたから」が23%でした。少なくとも、60%割近い保護者が、卒業後の「学び」の必要性を感じていたということです。

iii. L's College おおさかへの満足度



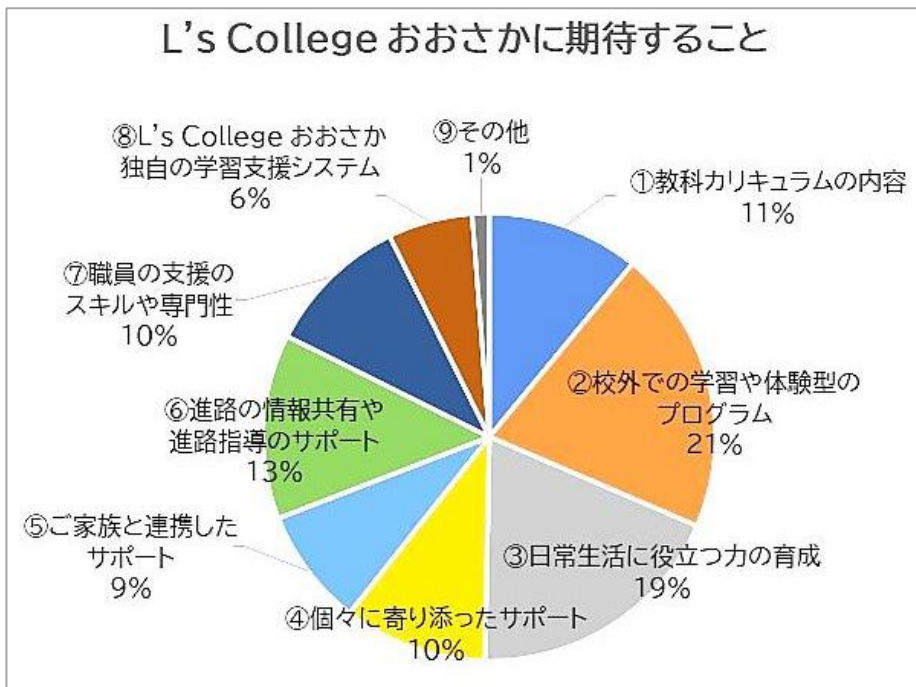
L's College おおさかへの満足度について、98%の保護者が満足と回答していますが、不満足と回答した保護者もいることを、しっかりと受け止める必要があると考えます。

iv. L' s College おおさかを楽しめているか



ほとんどが楽しめているという回答になっています。L' s College おおさかが考える「学び」とは、まず、楽しむことであり、これが大切だと思います。

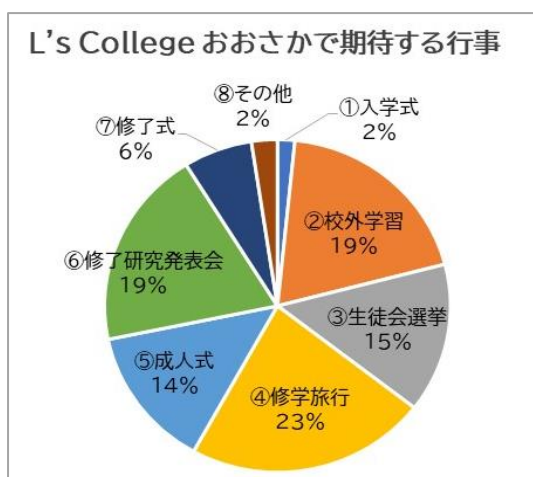
v. L' s College おおさかに期待すること



L' s College おおさかに期待することは、多岐にわたっています。最も多かったのが「体験的な取り組みの充実」(20%)です。L' s College おおさかでは、月に2回程度、校外での体験活動を行っています。公共のルールや集団活動、友達との距離感等、多くのことを楽しみながら学べるように工夫をしています。次いで、「日常生活に役立つ力の育成」(19%)です。これも、体験的な活動とは切り離せない「学び」で

すが、集団やルールを意識して行動ができるようになるためには、実践的な体験活動が不可欠です。そのためには、校外での活動をいかに有効活用するかがポイントになります。次に、「進路の情報やサポート」(13%)という回答になっています。自立訓練の2年間は、とても短いです。そのため、保護者は次のステップを早くに検討しなければなりません。「はじめに」でもふれましたが、L' s College おおさかの設置母体である、エル・チャレンジは、障がいのある人の就労支援を約20年間にわたって取り組んできました。その実績をもとにした、大阪府内における関係機関との連携を生かして、終了後、次のステップを保護者に提案できるように取り組んでいます。

vi. L' s College おおさかで期待する行事

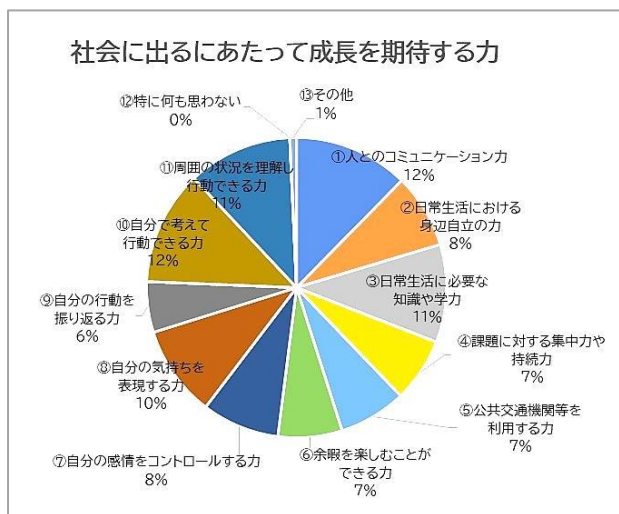


大きく5つに分けられますが、一番多いのが「修学旅行（宿泊訓練）」（23%）です。修学旅行は、2年生の11月に実施されますが、1年生の7月頃から、各クラスのホームルーム等を活用して、修学旅行への準備を行います。図書館等で、観光地案内や旅行雑誌などを借り、話し合いを続けます。その中で個々の在籍者が、修学旅行へのイメージを作り上げ、1年生の11月頃までに、学年でプレゼンテーションを実施し、投票により行き先が決定します。

次いで、「校外学習」（19%）と「修了研究発表会」（19%）が同じパーセントです。「校外学習」は、工場見学から自然史博物館、美術館等の見学を、学年やクラス単位で実施しています。

「修了研究発表会」は、一年次は団体演技を中心に学習発表を行い、二年次は修了研究と位置づけ、複数のグループごとで、個の学習を見てもらえるように取り組んでいます。在籍者が2年間で培ってきた力を発表会を通じて、保護者に見てもらえるように取り組んでいます。次いで、「生徒会選挙」が15%となっています。生徒会選挙は、選挙権が18歳となっているため、できるだけ模擬選挙になるよう工夫をしています。最後に「成人式」が14%となっています。

vii. 社会に出るにあたって成長を期待する力



L' s College おおさかにおいて、成長を期待する力は、回答が多岐にわたりました。これらのことから、L' s College おおさかへの期待は、多様であることがわかります。

ii - ii. 修了者 保護者アンケート調査結果

平成28年度・29年度の修了者の保護者に対し、L' s College おおさかへのアンケートに関するアンケート調査を行いました。

なお、調査対象や人数等は以下の通りです。

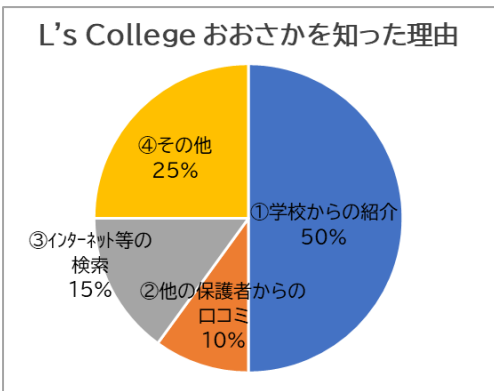
調査対象:L' s College おおさかの修了者の保護者

人数: 26名

回答率: 85%

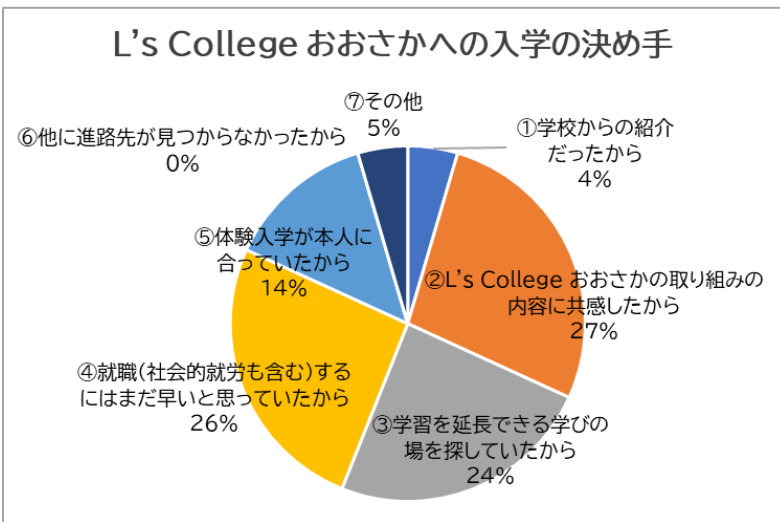
質問項目は、別添3のとおりです。

i. L' s College おおさかを知った理由



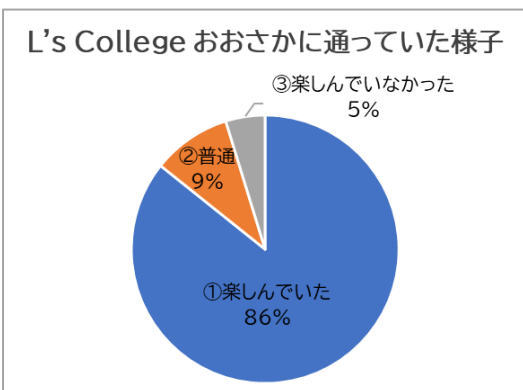
L' s College おおさかを知った理由は、在籍者の保護者と同様、「学校からの紹介」(50%) がトップでした。以下、「インターネット等の検索」(15%)、「他の保護者からの口コミ」(10%) の順になっています。

ii. L' s College おおさかへの入学の決め手



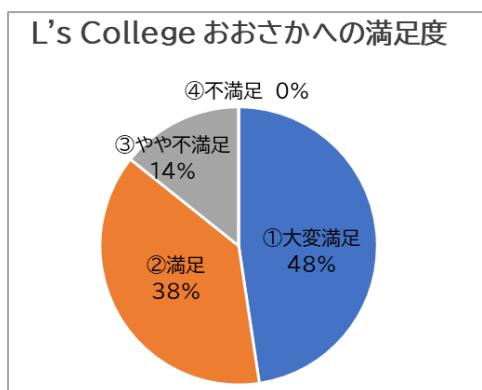
結果は大きく 4 つに別れ、最も多かった回答は、「L' s College おおさかの取り組みに共感したから」(27%) でした。次いで、「学習を延長できる学びの場を探していたから」(24%) という回答で、次の「就労(社会的就労も含む)するにはまだ早いと思っていたから」(26%) の回答と合わせると、半数の人が就労するまでにもう少し時間がほしいと、同意見を持っていることが推察できます。

iii. L' s College おおさかに通っていた様子



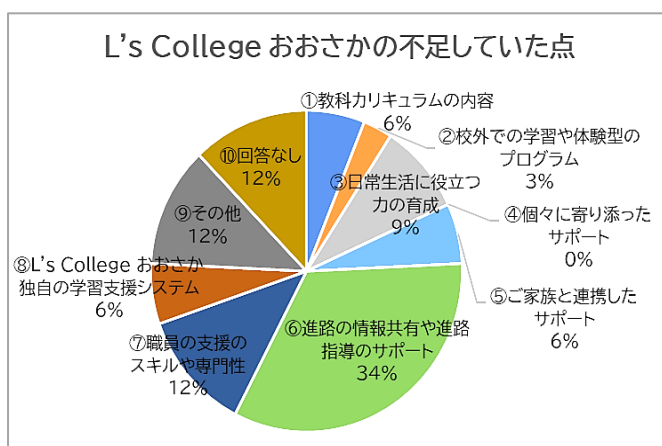
L' s College おおさかに通っていた様子については、多くの保護者から「楽しそうに通っていた」(86%) との回答を得ました。

iv. L' s College おおさかへの満足度



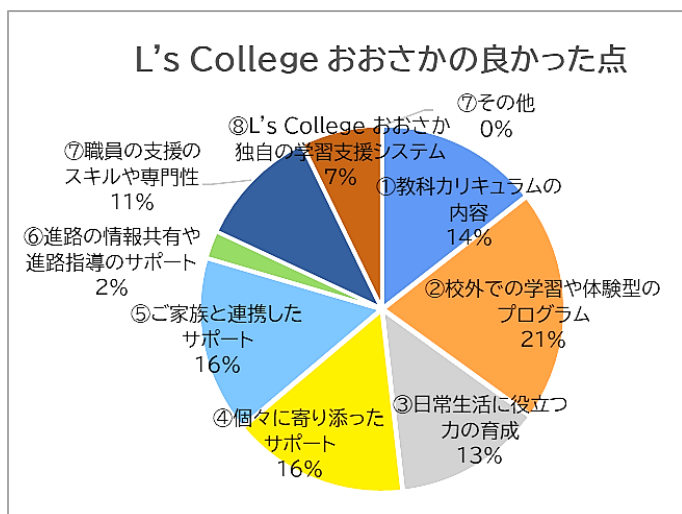
L' s College おおさかを選択されてどうでしたかという質問に対して、「大変満足」(48%)と「満足」(38%)を合わせると、86%となりました。しかし、「やや不満足」との回答が14%ありました。

v. L' s College おおさかの不足していた点



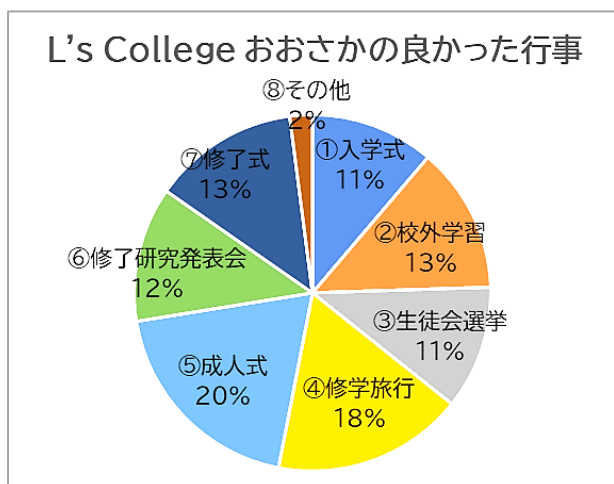
L' s College おおさかの不足していた点では、最も回答が多かったのが「進路に関すること」(34%)です。L' s College おおさかの2年生の9月に、進路相談を開始しますが、これらのアンケート結果から、進路選択への十分な説明や、連携がうまくいかなかった部分があると考えます。今後は、L' s College Plus も含めて、修了後の進路について、個々の特性に踏まえた相談体制を確立していく必要があります。

vi. L' s College おおさかの良かった点



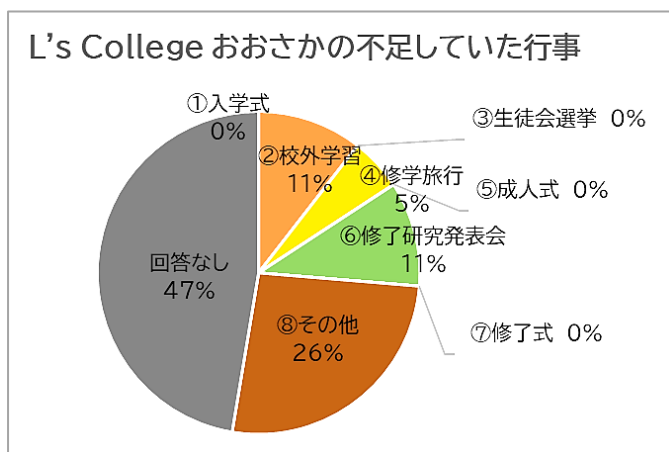
在籍者保護者アンケートの「L' s College おおさかに期待すること」と同様の回答になりました。

vii. L' s College おおさかの良かった行事



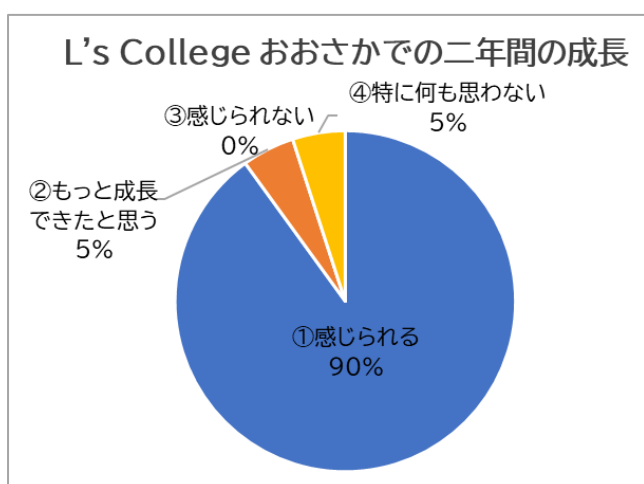
最も評価の高い行事は「成人式」(20%)で、次いで、「修学旅行(宿泊訓練)」(18%)でした。

viii. L' s College おおさかの不足していた行事



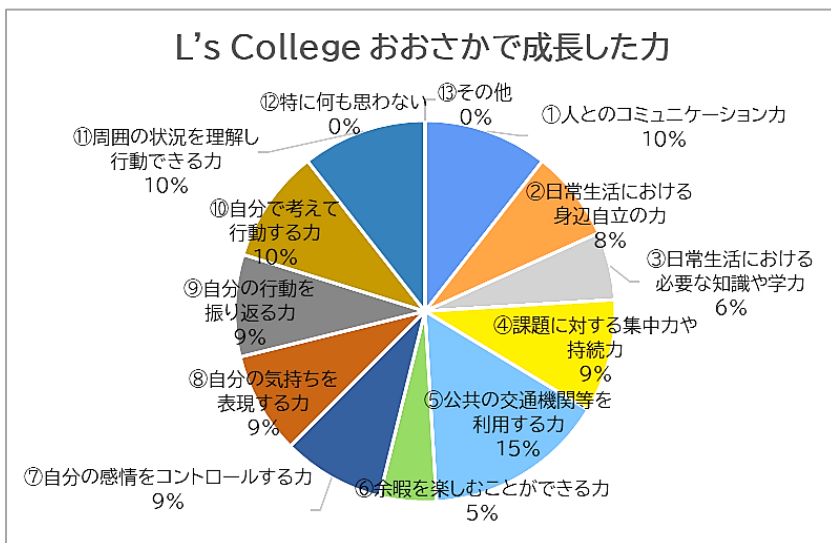
約半数の人が、「回答なし」(47%)で、不足していた行事として「校外学習」と「修了研究発表会」の回答が多くなりました。

ix. L' s College おおさかでの2年間で成長を感じられたか



L' s College おおさかとして、最も重視する事ですが、90%の保護者から成長を「感じられる」との回答があり、10%が「もっと成長できたと思う」、5%が「特になにも思わない」との回答でした。

x. L' s College おおさかで成長したと思うところは



本人の成長を感じられる部分は、多岐にわたり、多くの保護者から変化した部分があるとの評価を得ました。成長は、今の学習が結果に表れるのではなく、学び続ける中で、何か一つのきっかけを通して、ステップを上げるものだと考えます。

ii-iii. 在籍者 アンケート調査結果

平成 30 年度の在籍者に対し、L' s College おおさかに関するアンケート調査を行いました。

なお、調査対象及びに方法については以下の通りです。

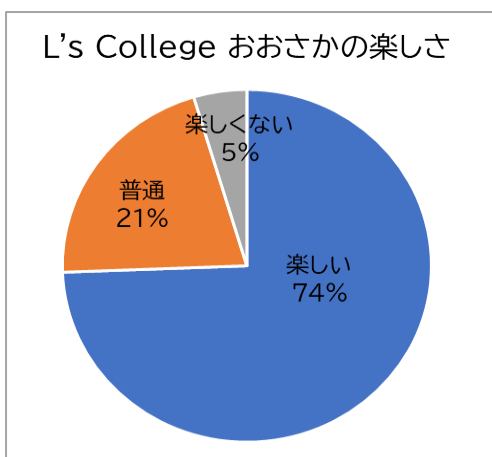
調査対象：L' s College おおさかの在籍者

人 数：43 名

回 答 率：100%

質問内容は、別添 4 のとおりです。

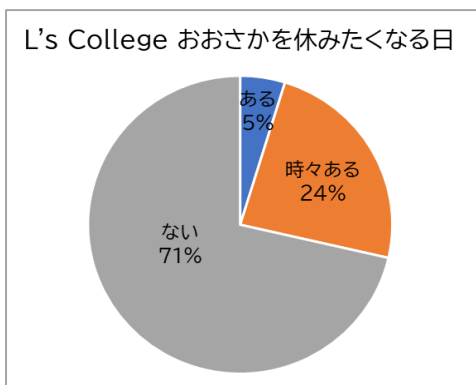
i. L' s College おおさかの楽しさ



L' s College おおさかが楽しいか楽しくないかの問いに対して、楽しくない生徒が 5% いるということは、今後注目すべき点です。

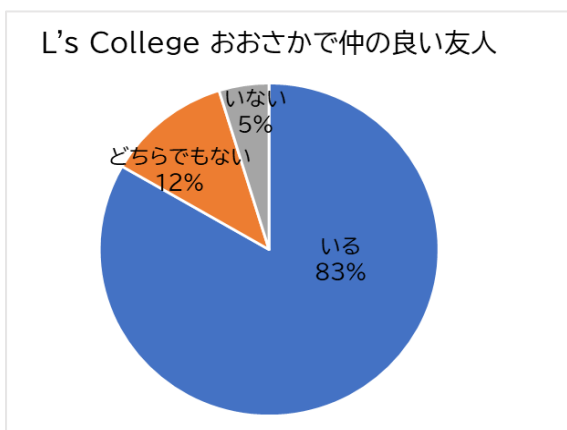
楽しいと回答する生徒がより多くなるよう、L' s College おおさかは楽しいが 100% をめざしていきます。

ii. L' s College おおさかを休みたくなる日



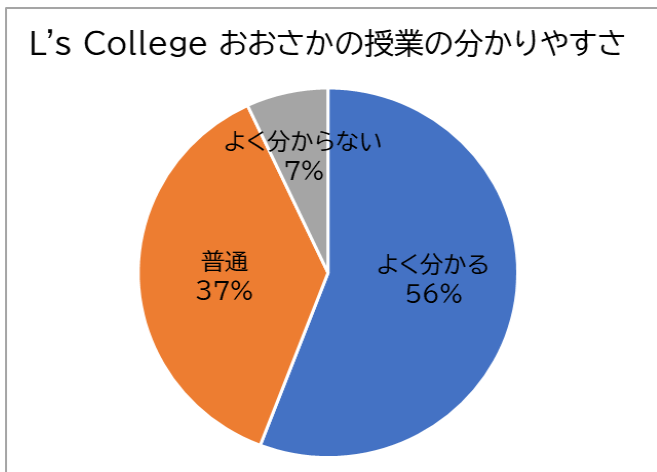
誰でも休みたい日があり、それが問題ではなく、継続して休みたい、あるいは行きたくないことが問題だと考えます。今後、休みたいという回答が増えていくことがあれば、大きな問題ではありますが、今回の調査では、台風や地震の日、あるいは気持ち的に行きたくない日があるという理由であり、ごく普遍的な心境だと考えます。

iii. L' s College おおさかで仲の良い友人



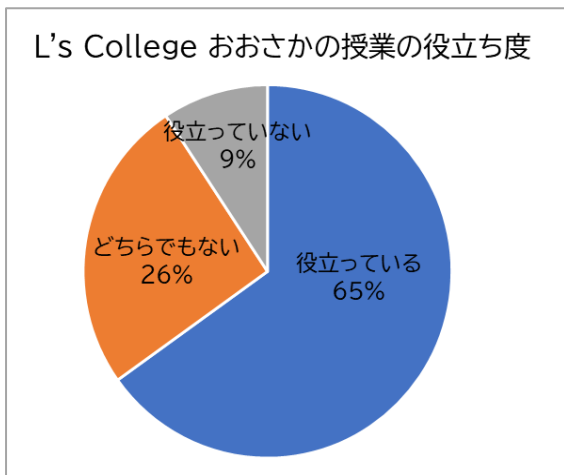
多くの生徒が仲の良い友人が「いる」(83%)と回答している反面、いないと回答した生徒も5%おり、体験活動や昼休み、放課後での活動などを通じて、配慮していく必要があると考えます。また、グループ学習などを踏まえて、友人を作るためのサポートをしていきます。

iv. L' s College おおさかの授業の分かりやすさ



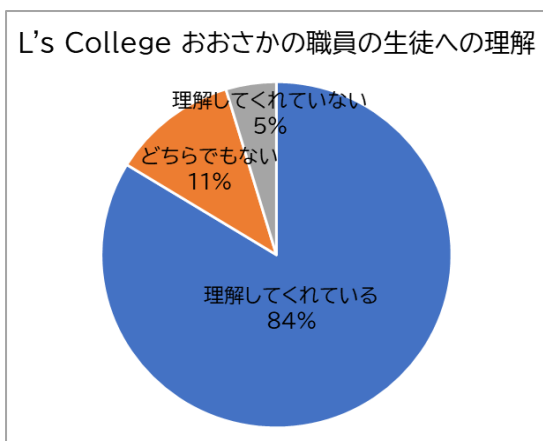
「よくわかる」が56%で、「普通」が37%という回答でした。授業は、分かることばかりでも、分からないことばかりでも、モチベーションが下がってしまうため、授業にはバランスが必要だと考えます。

v. L' s College おおさかの授業の役立ち度



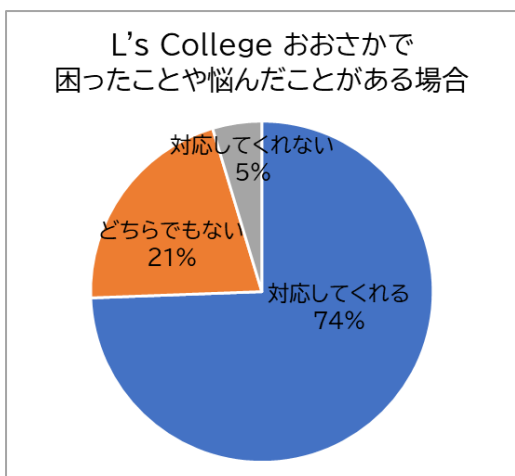
授業で学習したことが生活に役立っているかどうかを聞いており、65%の在籍者が「役立っている」と回答しました。今後も、実生活に必要な「学び」を積み上げていくことで、役立っていないという意見が少なくなるように努めたいと思います。

vi. L' s College おおさかの職員の生徒への理解



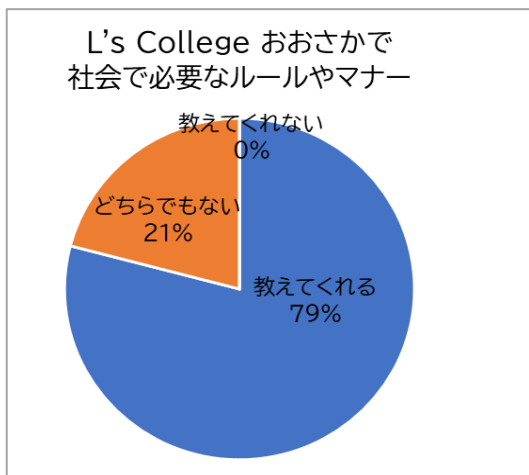
職員と在籍者との学校生活における共感の度合いについて、84%が「理解してくれている」と回答しました。これは職員が個々の在籍者にしっかりと向き合って対応しているからと考えますが、16パーセントが「どちらでもない」「理解してくれていない」と感じています。

vii. L' s College おおさかで困ったことや悩んだことがある場合



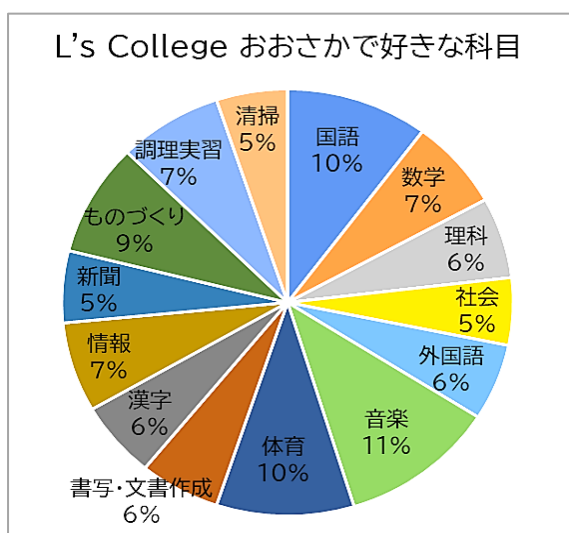
在籍者が困ったことや悩んだことに対して、学校として対応しているかという質問ですが、「対応してくれる」が74%で、「どちらでもない」が21%、「対応してくれない」が5%でした。

viii. L' s College おおさかで社会で必要なルールやマナーを教えてくれるか



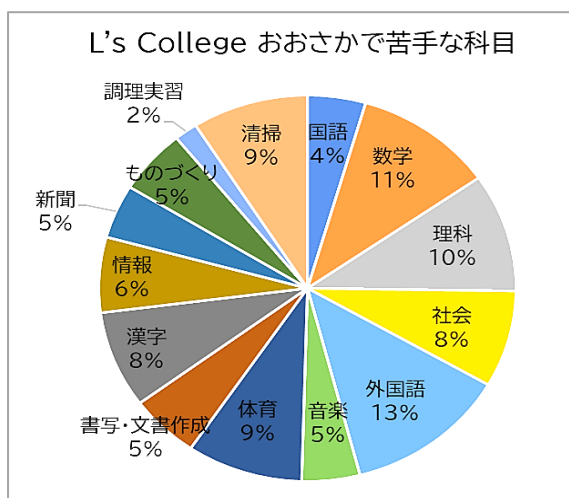
社会でのマナーやルールを教えてくれるかという質問に対して、「教えてくれる」が79%で、21%が「どちらでもない」との回答でした。

ix. L' s College おおさかでの好きな教科



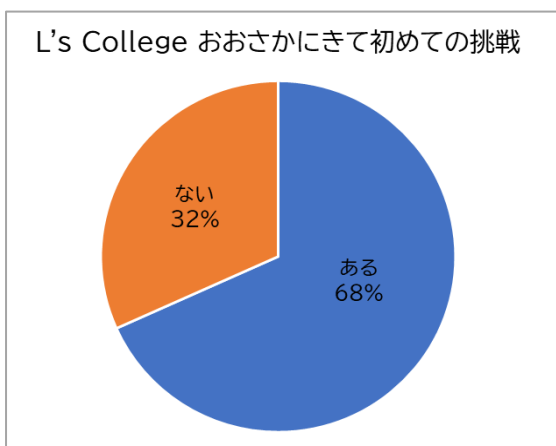
好きな教科を質問した結果は、多岐にわたった回答となりました。L' s College おおさかのプログラムは8教科であり、様々な「学び」を用意しています。

x. L' s College おおさかでの苦手な教科



好きな教科と同様に、多岐にわたる回答となりました。それだけ多様な「学び」があるということだと考えます。

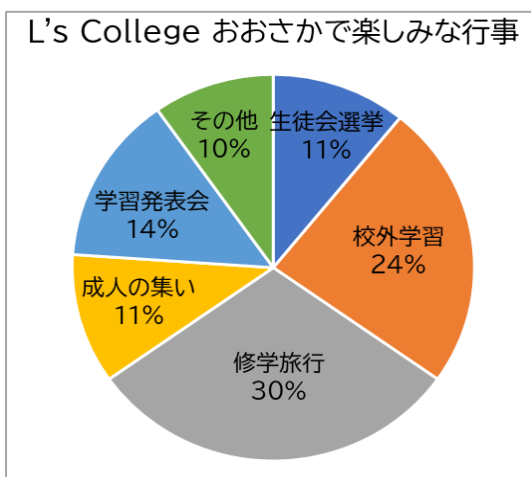
x i. L' s College おおさかにきて初めての挑戦



L' s College おおさかで初めて体験したことへの質問です。68%が「ある」、32%が「ない」と回答しました。

ワクワク・ドキドキするような新しい体験ができるよう、今後もプログラムの開発を進めていきます。

x ii. L' s College おおさかで楽しみな行事



「修学旅行（宿泊訓練）」が30%、「校外学習」が24%、「学習発表会」が14%等となりました。

V-I. L' s College おおさかの取り組み

i. L' s College おおさかの位置付け

L' s College おおさかは、障害者総合支援法に基づく自立訓練(生活訓練)事業を活用した福祉事業型の学校であり、「学び」を主軸とした学校スタイルにこだわっています。

自立訓練とは、①「入所施設・病院を退所・退院した者であって、地域生活への移行を図る上で、生活能力の維持・向上などを目的とした訓練が必要な者」、あるいは②「特別支援学校を卒業した者で、継続した通院により症状が安定している者等であって、地域生活を営む上で、生活能力の維持・向上などを目的とした訓練が必要な者等。」と国によって規定されています。

L' s College おおさかは、知的障がいのある人の高等学校卒業後の「学び」の場として、社会の中で、よりよく豊かに生きていくための基本的な力を育むことを大切にしています。

ii. L' s College おおさかの「学び」

L' s College おおさかは、自立訓練事業を活用して運営しており、社会自立のために、生活能力をどのように維持・向上できるかをポイントとしています。高等学校等を卒業した人を対象に、期間は概ね2年間とし、さらに、就労継続支援B型を活用したL' s College Plusの2年間と併せて、合計4年間のプログラムを提供しています。在籍者の多くは、コミュニケーションや協調性、集中力やモチベーションの維持、対人関係等に幼さを残していることから、社会自立に向けて一定の「学び」が必要だと考えます。

社会自立のための力は、様々な体験を通して、必要に応じてその経験を活かすことのできる必要があります。L' s College おおさかでは、そのことを踏まえ、4年間で学んでもらいたい目標を設定しています。

iii. L' s College おおさかの目的

L' s College おおさかの目的

L' s College おおさかの「学び」の目的は、大きく3つあります。

- ① 「暮らす力と働く力を育む」
- ② 「生きる力を育む」
- ③ 「自分で考え自分で行動する力を育む」です。

① 「暮らす力は」、居住の場所や暮らし方といったことではなく、社会の中で、よりよく豊かな生活を送ることのできる基本的な力のことです。そのためには、社会の中で対等な対人関係が築けること、心が健康であること、自分の楽しみを知るといったことが必要になってきます。また、「働く力」は、働き続ける力のことであり、モチベーションをいかに維持できるか、意欲をもって仕事に取り組めるか、仕事の中に楽しみを見出せるかといった力になると考えます。

② 「生きる力を育む」は、知識を知恵に変えていく力だと考えます。知っているだけではなく、知っていることを使えること、そして生活を豊かに、楽しく創造していく力です。

③ 「自分で考え自分で行動する力」は、L' s College おおさかが、最も大切にしたい力です。知的障がいのある人には、自分自身で何かを選択することのできる機会をもっと提供していく必要があると考えています。誰も「こうしなさい」や「それはダメ」といわれる経験が多くなると、自分の考えや行動に自信が持たなくなってしまいます。それは、内在している本来の力を発揮できない、発揮させないことに繋がっていると考えます。

この3つの力を育むために、L' s College おおさかでは、8つの教科と体験的な「学び」を多く取り入れたプログラムを導入しています。

なお、本調査研究報告書において、L' s College おおさかの「学び」のプログラムに「教科」という文言をあえて使用していますが、当然ながら、これは学習指導要領に基づく「教科」とは異なるものです。また、L' s College おおさかは、「障害者総合支援法」による福祉事業を活用した「学びの場」であり、

国の学習指導要領の定めを受けないものであります。L' s College おおさかでは、独自の「学び」の取組みを「教科」と表現することで、職員も在籍者も、共に、「学び」に対する主体性や積極性を常に再確認しています。

iv. L' s College おおさかのプログラム

L' s College おおさかのプログラムは、8教科と体験的な「学び」に大別できます。教科とは、「学び」のプログラムのことであり、体験的な「学び」とは、体験をベースとした総合的な「学び」のことです。障がいのある人に対しては、少ないアプローチよりも、学校教育のような多面的なアプローチの中から、興味や関心の幅を広げていくことが大切だと考えています。

以下に、L' s College おおさかのプログラムを紹介します。

(i) コミュニケーション国語

国語の要素は「読む」「書く」「聞く」が3要素と言われていますが、L' s College おおさかでは「発表」という要素を大切にしています。コミュニケーションの一步は、相手に何かを伝えたいという意欲だと思います。そのために、国語の前にコミュニケーションをつけて、相手に何かを伝える「発表」を重視しています。

(ii) 生活数学

数学の前に「生活」とついている理由は、生活の中で役に立つ、もしくは生活の中で活用できる数学的な力を伸ばしてもらいたいと考えているからです。計算する力はあるても、お金の計算や順序立てて考えることが苦手であることを軽減するために、訓練的な工夫をしています。例えば、一桁同士の簡単な100マス計算のタイムを計測し、数字に対する反応の速さを高め、瞬発力を鍛えます。また、記憶の訓練も行います。練習することで、記憶できる量は増えていきます。覚えることに意欲を持って取り組めるように、ゲーム的要素等を入れて、意欲的に取り組めるよう工夫しています。

自分の体を使って長さを測ったり、体重と比較することで、ものの重さを感じたりと、体感的に学べるような「学び」を取り入れています。

(iii) 生活社会

生活社会では、身近なことから広がっていきます。L' s College おおさかの在籍者は、大阪府の様々な地域から通学しているため、自分の住んでいる地域を調べて知ることから始めます。それから、大阪府全体、近畿、西日本、関東、東北と地域を広げていきます。歴史では、NHKの大河ドラマなど身近な歴史から興味のあることを探り、史跡や博物館、歴史館などに行くなど、体験的な「学び」の機会を設けています。

(iv) 生活理科

生活理科も生活社会と同様に、生活に必要な理科的な知識を取り上げます。気象ニュースや作物作りなど、身近な題材や実験などで興味を引き付けられるよう、工夫しています。

(v) 漢字学習

国語の一要素である漢字を取り出して学ぶのは、漢検を受けるためです。資格に挑戦して突破する「学び」を経験するため、個々の力や受験する級に合わせて学んでいます。

(vi) 新聞学習

新聞やニュースに興味関心が低い在籍者が多いため、新聞学習をプログラムに取り入れています。一般紙では、ボリュームが多く焦点が絞れないため、こども新聞を活用しています。

(vii) 書写・文書作成

書写では、マス目にきれいに文字を書くことを意識し、文字のバランスや大きさなどをある程度コントロールできるよう、学習を行っています。文書作成では、基本的な文章の書き方について学び、様々な文書を模写することで、文章の書き方や文章の内容について学びます。

(viii) 情報

情報学習では、パソコンの基本的な操作や知識を中心に学びます。インターネットを使い、興味のあることを検索できるよう学んだり、ワードやエクセル、時にはパワーポイントなどを活用しながら、プレゼンテーションの資料の作成を行ったりしています。

(IX) 外国語

外国語は、中国語を学んでいます。中国語での簡単なあいさつや会話ができるよう、簡単なフレーズを話すことに重点を置き、取り組んでいます。

(x) ものづくり

ものづくりは、美術工作とレザークラフトに分かれます。美術工作は、絵を描くことや作品作りから、色彩感覚を養います。紙や木、粘土など素材を変えることで、手指の巧緻性を高めます。レザークラフトは、外部から専門の講師を招聘しています。自分で作ったものを使ったり、家族へのプレゼントとなるよう、作品を作っています。これまでに、ポシェット、ティッシュカバー、壁掛け時計作りに取り組みました。

(x i) 家庭科

家庭科の授業では、調理実習を中心に学んでいます。

(x ii) 音楽

音楽は、合唱やリズム楽器で合奏をしたりと、音楽に親しむことを大切にしています。また、課題曲を設定し、カラオケスタジオに行き、歌うことを楽しむといった取り組みも行っています。

(x iii) 体育

体育は、近くのグラウンドで、週に2コマ続きで学んでいます。体を動かすことやゲームスポーツを楽しむことで、体を動かしながら集団を意識できるよう取り組んでいます。

V-II. L' s College おおさかの週間プログラム
 (1年め)

		 へいせい ねんど じかんわり ねん 平成30年度 時間割 (1年)				
		月	火	水	木	金
	9:00	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム
	9:15	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム
1	9:15	コミュニケーション国語 Aクラス・Bクラス	生活数学 Aクラス・Bクラス	コミュニケーション国語 Aクラス・Bクラス	生活数学 Aクラス・Bクラス	コミュニケーション国語 Aクラス・Bクラス
		生活数学	コミュニケーション国語	生活数学	コミュニケーション国語	生活数学
	10:05	Cクラス・Dクラス	Cクラス・Dクラス	Cクラス・Dクラス	Cクラス・Dクラス	Cクラス・Dクラス
	10:05	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
	10:20	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
2	10:20	ものづくり 調理実習	生活社会 (学年)	生活数学 Aクラス・Bクラス	音楽 (各クラス)	生活理科 (各クラス)
			コミュニケーション国語 Cクラス・Dクラス			
	11:10			休憩	休憩	休憩
3	11:25	特別活動 (各クラス)	情報 (学年)	外国語 (学年)	情報 (学年)	新聞学習 (各クラス)
	12:15					
4	12:15	漢字学習 (各クラス・レベル)	書写・文書作成 (各クラス)	体育・ 生徒会活動 (学年)	書写・文書作成 (各クラス)	校内清掃 (各クラス)
		休憩	休憩		休憩	休憩
	13:55					
5	14:10	休憩	14:30 下校	自主学习 (各クラス)	自主学习 (各クラス)	14:30 下校
	14:50	ホームルーム	ホームルーム			
	15:15	下校	下校	下校	下校	下校
	15:30	下校	下校	下校	下校	下校

〈2年め〉

		 へいせい ねんど じかんわり ねん 平成30年度 時間割 (2年)					
		月	火	水	木	金	
	9:00	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	
	9:15						
1	9:15	コミュニケーション国語 Aクラス・Bクラス	せいかつすうがく 生活数学 Aクラス・Bクラス	コミュニケーション国語 Aクラス・Bクラス	せいかつすうがく 生活数学 Aクラス・Bクラス	コミュニケーション国語 Aクラス・Bクラス	
		せいかつすうがく 生活数学 Cクラス・Dクラス	コミュニケーション国語 Cクラス・Dクラス	せいかつすうがく 生活数学 Cクラス・Dクラス	コミュニケーション国語 Cクラス・Dクラス	せいかつすうがく 生活数学 Cクラス・Dクラス	
	10:05	きゅうけい 休憩	きゅうけい 休憩	きゅうけい 休憩	きゅうけい 休憩	きゅうけい 休憩	
2	10:20	ものづくり ちようりじつしゆ 調理実習 とくべつかつどう 特別活動 かく (各クラス)	せいかつり か 生活理科 がくねん (学年)	せいかつすうがく 生活数学 Aクラス・Bクラス コミュニケーション国語 Cクラス・Dクラス	じようほう 情報 がくねん (学年)	せいかつしやかい 生活社会 がくねん (学年)	
			きゅうけい 休憩	きゅうけい 休憩	きゅうけい 休憩	きゅうけい 休憩	
	11:10		おんがく 音楽 かく (各クラス)	じようほう 情報 がくねん (学年)	がいこくご 外国語 がくねん (学年)	しんぶんがくしゆ 新聞学習 かく (各クラス)	
	11:25		ひるやす 昼休み	ひるやす 昼休み	ひるやす 昼休み	ひるやす 昼休み	ひるやす 昼休み
3	11:25	かんじがくしゆ 漢字学習 かく (各クラス・レベル)	がいこくご 外国語 がくねん (学年)	しよしや ふんしよさくせい 書写・文書作成 かく (各クラス)	たいいく 体育・ せいとかいかつどう 生徒会活動 がくねん (学年)	こうないせいそう 校内清掃 かく (各クラス)	
			きゅうけい 休憩	きゅうけい 休憩			きゅうけい 休憩
	12:15		かていか しゆらよきけんきゆ 家庭科・修了研究 かく (各クラス)	ホームルーム			じしゆがくしゆ 自主学习 かく (各クラス)
4	13:15	ホームルーム	14:30 げこう 下校	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	
	13:55						きゅうけい 休憩
5	14:10	ホームルーム	14:30 げこう 下校	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	
	14:50						きゅうけい 休憩
	14:50	ホームルーム	14:30 げこう 下校	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	
	15:15						げこう 下校
	15:30	ホームルーム	14:30 げこう 下校	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	
	15:15	ホームルーム	14:30 げこう 下校	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム	
	15:30						げこう 下校

i. 週間プログラムについて

L' s College おおさかでは、1時間を50分として、1日5セットの「学び」のプログラムを用意しています。特別支援学校等では、90分を1つのまとまりとして運用していることも少なくないですが、L' s College おおさかでは、多面的なプログラムを取り入れていることもあり、1コマ50分でプログラムを展開しています。体育やものづくり(美術工作等)は、50分では少ないので、50分2コマセットにしています。「学び」のプログラムは、ホームルームを入れて、朝は9時より、午後は3時15分までとなっていますが、火曜日と金曜日は、職員会議や教材研究等の時間を確保するため、午後2時30分に終了します。

ii. 「学び」の体制について

プログラムによって、1・2年生を4グループに分けて、習熟度別に学ぶ場合と、学年20名を1グループとする場合があります。また、各クラスの独自性や小集団の特性を生かすために、クラスごとの「学び」も取り入れています。学年の定員は約20名であり、1クラスは約10名です。

(i) コミュニケーション国語と生活数学

コミュニケーション国語と生活数学は、約40名を4グループに分けて習熟度別で学びます。

(ii) ものづくり

ものづくりでは、2コマ100分で「学び」を進め、レザークラフトと美術工作に分かれています。レザークラフトは、学年単位での授業としています。

(iii) 漢字学習

漢字学習では、クラスごとで漢字の学習や意味の「学び」に取り組む場合と、漢字検定を受験することを目的に、検定の級によってグループに分かれて学び場合があります。

(iv) 音楽

週1回、各クラス(約10名)での実施です。

(v) 外国語

外国語は、学年(約20名)での実施で、1年生が週1回、2年生が週2回の実施です。2年生は、1年時よりさらにステップアップすることを目標としています。

(vi) 書写・文書作成

各クラス(約10名)で実施しており、1年生は週2回、2年生は週1回の実施です。基礎的な力を育むため、1年生は週2回の実施となっています。

(vii) 情報

週2回、各学年(約20名)で実施しています。プレゼンテーション等、学年単位での課題設定が多いことから、学年で学んでいます。

(viii) 新聞学習

週1回、各クラス(約10名)で実施しています。学年単位でなく、少人数で学習を行うことで、興味関心が持てるよう、工夫しています。

(ix) 体育

週1回、各学年(約40名)で実施します。体を動かしながら、集団を意識できるような取り組みを行うことが多いため、学年で行っています。

(x) 校内清掃

週1回、各クラス(約10名)で実施します。各クラスのHRの清掃が主ですが、相談室をはじめ、共有部分に関しては、全体で役割分担をして取り組みます。

V-III. L' s College おおさかの年間行事

〈1年目〉

月	行事概要
4月	入学式/オリエンテーション/避難訓練
5月	校外学習/生徒会選挙・保護者懇談
6月	生徒会役員会
7月	プール学習
8月	プール学習/自由登校日(8/13~15)
9月	前期試験/避難訓練
10月	生徒会役員会
11月	校外学習
12月	クリスマス会/保護者懇談
1月	成人の集い
2月	後期試験/学習発表会
3月	修了式

〈2年目〉

月	行事概要
4月	入学式・進級式/オリエンテーション/避難訓練
5月	校外学習/生徒会選挙・保護者懇談
6月	生徒会役員会
7月	プール学習

8月	プール学習/自由登校日(8/13~15)
9月	前期試験/進路相談/避難訓練
10月	生徒会役員会
11月	修学旅行
12月	クリスマス会/進路相談
1月	成人の集い
2月	後期試験/修了研究発表会
3月	修了式

2年間の基本的な行事を上記に示しました。

1年目から順に月別に説明します。

i. 1年目の行事

《4月》

(i) 入学式

入学式では、2年生が、新入生の受付や式場案内を行い、司会進行を担当します。2年生の意見を取り入れ、新入生に対する合唱などの歓迎セレモニーを実施します。在籍者による歓迎レセプションを取り入れることで、「学びの場」として入学式を設定しています。

(ii) オリエンテーション

オリエンテーションは、新入生同士の自己紹介やL' s College おおさかのルールの確認、周辺を把握するための散策等を行います。1年生と2年生の交流が図れるよう、自己紹介の時間や生徒会の役割説明の時間も設けています。

(iii) 避難訓練

避難訓練は、年間3回、火災、地震、津波を想定した避難訓練を行っています。事前に学んだ後、防災サイレンの合図とともに、職員の指示のもと、避難経路を確認し、避難を行います。

《5月》

(i) 校外学習

校外学習は、新入生にとって、友人関係を築くことを大きな目的としています。全体あるいは学年で実施しますが、在籍者の意見を重視しながら、集団の単位や行先を決定します。

(ii) 生徒会選挙

生徒会選挙は、誰でも自由に立候補することができますが、応援演説者を決めなければなりません。学年は関係ありませんが、友人に交渉して応援演説をお願いすることが必須です。依頼することは、コミュニケーションの学習にもなります。また、立会演説会では、保護者に参加を呼びかけてい

ます。保護者参加の行事を企画することで、L' s College おおさかの取り組みへの理解や、在籍者の成長を実感してもらうことをねらいとしています。立候補しない在籍者は、立会演説会の司会進行や、立候補者のポスター制作の手伝い、また、選挙管理委員として開票作業を実施したりと、選挙に関わる役割を担います。生徒会選挙は、大きなイベントであり、立候補者や応援演説を引き受けた在籍者にとっては、声かけ運動やあいさつ運動など、毎年工夫を凝らしながら、自己アピールを行う機会となっています。



(iii) 保護者懇談

保護者との懇談は、年間3回程度実施します。最初の懇談は、学習支援計画を含めて、保護者から在籍者の課題だと考えられていることについて聞き、L' s College おおさかでの方針や方向性などを個別に説明します。

《6月》

(i) 生徒会役員会

生徒会選挙で選出された役員の最初の打ち合わせです。L' s College おおさかで取り組みたいことや行事について、意見を述べるすることができます。また、在籍者代表として、直接校長に意見を伝えることのできる場でもあります。これまでの取り組みとして、意見箱の設置や生徒会役員によるお悩み相談室、課外学習の設定など、在籍者の意見で企画されたことが多くあります。

(ii) プール学習

L' s College おおさかにはプール設備がなく、大阪市舞洲障がい者スポーツセンターの室内プールにおいて、夏に学年ごとに年3回程度実施します。

《8月》

自由登校日

自由登校日は、土日を含めないお盆休み期間の三日程度を自由に登校する日としています。余暇活動の一環として、ボーリング大会や調理実習、カラオケ大会など、在籍者が楽しめることを企画し、実施しています。



《9月》

(i) 前期試験

L' s College おおさかでは、前期と後期に主要な教科で試験を行います。試験教科はすべての教科でなく、主要な教科で実施しています。学力を問うのではなく、試験あるいは目標に向かって努力する過程を大切にしています。職員に補講を依頼したり、放課後の時間を自習的な「学び」の時間に使う等の姿を見ることができます。試験は「学び」のグループごとに内容が異なります。



(ii) 避難訓練

災害（地震と火災）を想定した避難訓練となります。特に、地震の避難訓練では、津波を想定した訓練を実施しています。また、消防署の協力を得て訓練を実施する場合があります。

《10月》

生徒会役員会

クリスマス等の季節行事や成人式、学習発表会など今後の行事についての説明を受け、在籍者が意見を話し合う場となっています。生徒会役員を中心に運営を行い、司会進行も役員が担当します。

《11月》

校外学習

基本的には学年単位で実施しますが、クラス別で行うこともあります。在籍者が、自分たちで行事を決めるため、「自分で考え、自分で行動する力を育てる」実践的な「学びの場」となっています。

《12月》

(i) 季節の集い(クリスマス会)

季節の集いは全体で取り組みます。調理実習や在籍者の有志による出し物など、自分たちで提案・企画した内容で取り組みます。

(ii) 保護者懇談

1回めに引き続き、家庭での状況を保護者から聞き、L' s College おおさかの取り組みや評価の概要を伝えています。

《1月》

成人の集い

1年生が主体となって、2年生への歓迎のレセプションを行います。合奏での祝福や花束贈呈等を行います。

《2月》

(i) 後期試験

前期試験の場合と取り組み内容は同じです。

(ii) 学習発表会

浪速区にあるリバティ大阪のホールにおいて、学習発表会を実施します。ホールは、300程度の座席を有する音響や照明を駆使できる舞台です。毎年、1年生は団体演技を披露し、ここ数年は南中ソーランのエルカレ版を披露しています。夏頃から練習を行い、秋以降は放課後も練習するなど、熱心に取り組みます。当日は、迫力のある演技と団結力で、観覧者を圧倒するような演技が披露されます。保護者を含め、次年度の新入生や修了者にも案内しています。



《3月》

修了式

入学式は、2年生が司会・進行等を行い、修了式は、1年生が受付案内等の役割を担います。修了証書はもちろん、修了アルバムや記念品も思い出に残るようなものとしています。保護者から本格的で嬉しいとの声もあり、年々、充実した内容となっています。

以上が1年めの行事です。2年めは1年目と異なっている部分のみ説明します。

ii. 2年めの行事

《9月》

進路相談

進路相談では、L' s College Plus の説明と保護者の意向を聞きます。L' s College おおさかは、4年のプログラムを提案していますが、エスカレーター式ではありません。自立訓練の2年間で区切りとして、次のステップとしてL' s College Plus を選択するのか、他の事業所等を選択するのか、就労移行を含めて進路を検討しているかを保護者と相談します。

《11月》

修学旅行（宿泊訓練）

修学旅行は1年生の秋頃に、行きたい場所のプレゼンテーションを行い、投票で行先を決定します。どこへ行きたいか、何をしたいか、何を見たいかなどを図書館やインターネットで情報を集め、プレゼンテーションを行います。発表は複数で行われる場合もありますが、最終的には支持の多いところを選ばれるため、友人を巻き込んでいくことが必要となります。修学旅行は二泊三日で行われ、仲間との思い出が在籍者の成長につながります。



《12月》

進路相談

2回目の進路相談は、より具体的な支援を進めていきます。

《1月》

成人の集い

市町村においても成人式は実施しますが、L's College おおさかでは独自に成人の集いを実施しています。

毎年、ホテルの宴会場において、二十歳の誓いを述べたりと、新成人の門出を祝う場としています。保護者参加型の行事であり、感謝の気持ちを込めて、保護者に手紙を読む時間を設けています。

楽しい雰囲気とともに、式典としての厳粛さを取り入れる工夫をしています。



《2月》

修了研究発表会

1年生は団体演技の学習発表を行い、2年生は、テーマごとに分かれ、少人数で発表を行います。学習の集大成であり、毎年、テーマが変わり、在籍者と職員が意見を出し合いながら、テーマを決定します。



《3月》

修了式

修了式も保護者参加型の行事です。在籍者による送辞や修了者による答辞があり、生徒会の代表者が送る言葉を述べます。2年間の区切りとなるよう、送る者と送られる者にとって大きな「学び」となるよう工夫をしています。

L' s College おおさかの全ての行事は「学び」であり、主体は在籍者です。職員はその意思決定に寄り添う存在でありたいと考えます。



V-IV. L' s College おおさかの体験的な「学び」

i. 教科体験的な「学び」

L' s College おおさかの教科体験的な「学び」は、校外学習とは異なり、教科と関連した取り組みです。外部指導者を招いた学習も含め、体験的な「学び」という位置づけにしています。年間を通じて、月に2回程度実施します。

(i) コミュニケーション国語

コミュニケーション国語では、月に一度大阪市立中央図書館へ行きます。課題に応じた必要な本を借りたり、興味のある本やDVDを借りて楽しみます。公共の場でのルールやマナー等、実際に行かなければ学べないことも多くあります。



(ii) 生活理科

生活理科では、大阪市立科学館へ施設見学に行きます。近年、天体ショーがニュースでも多く取り上げられるようになったことから、生徒の興味や関心も高まっています。また、さつまいもやトウモロコシなど、作物作りに挑戦しています。収穫作物は、ふかしイモやスイートポテト等にと調理しています。



大阪市水道局から講師を招き、日常生活における水の役割やその必要性等について学ぶ機会を設けています。また、身近なライフラインであるガスについて、大阪ガスから講師を招き、ガスの役割や必要性等について、学ぶ機会を設けています。さらに、関西電力から講師を招き、日常生活における電力の役割や必要性について、学ぶ機会を設けています。



(iii) 生活社会

生活社会では、大阪造幣局へ施設見学に行きます。硬貨の製造を見学したり、お金について学びます。また、朝日新聞社を訪問し、新聞の読み方や流通の仕組みについて学ぶ機会を設けています。さらに、大阪城を訪ね、天守閣から大阪の街を眺めたり、地理や歴史について、体験的に学ぶ機会を設けています。

18歳から選挙権が発生するため、浪速区選挙管理委員会の担当者から、その仕組みや方法について、学ぶ機会を設けています。実際に模擬選挙を行うことで、より身近に選挙を捉えられる機会としています。

また、株式会社マンダムの担当者から洗顔の方法や整髪料の使い方等、身だしなみを整える大切さについて、体験的な学びの機会を得るとともに、スマートフォンのルールやマナーをKDDI担当者から学ぶ機会を得ています。



(iv) 体 育



体育体験学習として、年2回程度実施します。友人と気軽にスポーツを楽しみ、余暇活動の幅を広げられるようにしています。

また、プール学習を実施しています。



(v) 音 楽

音楽体験学習として、年2回ほど、近辺のカラオケスタジオを使用して行っています。余暇活動の楽しみの幅を広げるだけでなく、リフレッシュの時間ともなっています。



(vi) 食育学習

毎年、浪速区役所で開催される食育フェアに参加し、手洗いや歯みがき、バランスの良い食事等について、食について学ぶ機会を設けています。

調理実習を年に数回、施設に併設されている調理実習室で行います。グループごとに、買い物から調理までを総合的に行います。簡単な調理から家庭料理など、作る楽しみを知ることで、食に対する自立を図る機会としています。



ii. 校外学習

校外学習では、京都観光やユニバーサルスタジオジャパン、六甲カンツリーハウス等、様々な場所に出かけました。計画する中で、対人関係力や一定のルールに従うことを学ぶことができます。また皆で計画を立てることで、集団での一体感や友人との関係が深まります。



V-V. 大学交流等の地域連携プログラム

L' s College おおさかは、大学や地域との連携を大切にしています。ここでは、大阪府立大学羽曳野キャンパスで実施された「杏樹祭」における交流について報告します。

大阪府立大学羽曳野キャンパスでの交流

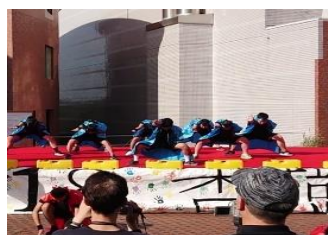
大阪府立大学羽曳野キャンパスは、府立大学の医療系（主として看護師等）の学生が学んでいます。羽曳野キャンパスが比較的小規模であり、交流しやすいと考えました。大阪府福祉部障がい福祉室自立支援課と大学事務局、学生自治会、L' s College おおさかとで検討を図り、以下の三点に取り組むこととしました。

- ① 大学構内でL' s College おおさかの作品展示を行う。
- ④ 大学祭の舞台で、L' s College おおさかが団体演技を披露する。
- ⑤ 学生とL' s College おおさかの在籍者が協力し、模擬店を運営する。



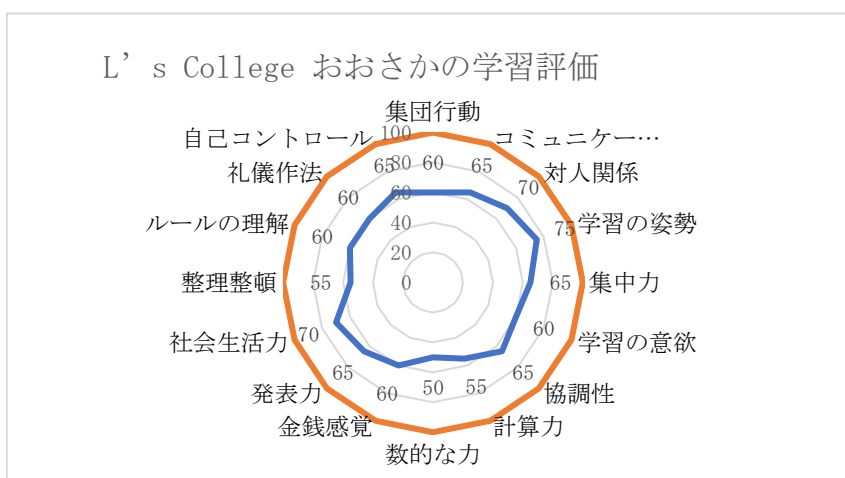
事前にL' s College おおさかの生徒会役員5名が、羽曳野キャンパスを訪問し、打ち合わせを行いました。

10月27日(土)は、作品展示や団体演技、模擬店の共同開催等、貴重な体験ができました。最初は、お互いに戸惑いましたが、世代が同じということもあり、すぐに打ち解けて、模擬店の協力や作品展示の説明等、リラックスして案内ができました。また、団体演技も迫力があり、好評を博しました。



V-VI. L' s College おおさかの学習評価

下記に学習評価の事例を表示します。



L' s College おおさかの学習評価は、16項目であり、1つの項目は、5つの質問からなっています。学習評価は、在籍者の「学び」に対する手がかりであり、今後、どのように「学び」に取り組んでいくかを考えるためのツールとします。教科学習の評価ではなく、教科や体験学習等の取り組みを通じて、社会で必要な力をいかに養っていくかということに主軸を置いています。

このため、個人の頑張りや努力を評価する絶対評価と、社会に出た後、多くの場合に受けることとなる相対的評価のいずれについても、在籍者及び保護者と、その結果を共有することにより、在籍者の「学び」をより効果的なものとするとともに、自立した社会生活を送ることのできるしっかりした準備に確実につなげていくこととします。

評価項目は、下記のとおりです。

- ・ 集団行動

周囲の状況に自分を合わせることのできる力。

- ・ コミュニケーション力

言葉のみならず、表情やボディランゲージなどにより、相手とのコミュニケーションを成立させる力。

- ・ 対人関係

相手の立場に立って、距離感を保つ等、必要な振る舞いをする事のできる力。

- ・ 学習の姿勢

予習や復習、課題提出など、学習の姿勢に関する力。

- ・ 集中力

いわゆる「授業」中の態度等、集中して学ぶ力。

- ・ 学習の意欲

いわゆる「授業」などにおけるテストの結果に対して、真摯に改めて学ぼうとしたり、わからないことを積極的に質問する等、学習意欲に関する力。

- ・ 協調性

「学び」の課題に対して、他の在籍者等と互いに助け合ったりしながら取り組む力。

- ・ 計算力

簡単な計算ができる力。

- ・ 数的な力

長さや重さ、量のおおよその大きさが推測できる力。

- ・ 金銭感覚

お金を使う力やお金に対する理解力。

- ・ 発表力

自分の意見や考えを複数の人に伝える力。

- ・ 社会生活力

社会生活を送る上で、他者や環境と付き合っていく力。

- ・ 整理整頓

自分の持ち物を把握し、優先順位をつけて整理する力。

- ・ルールの理解
社会的ルールを理解する力。
- ・礼儀作法
礼儀作法に関する力。
- ・自己コントロール
周囲の状況に合わせて、自分の感情をコントロールする力。

これらの評価は、年間2回を基本としており、在籍者及び保護者と共有しています。

また、L' s College おおさかの「学び」の評価は、在籍者の成長を把握し、「学び」の方向性を確認するためのものです。在籍者や保護者と共有した際には、意見も聞き、個々の「学び」の方向性に改めて反映しています。

実際の評価は、各クラスの担任が行い、各教科担当職員とも共有しています。また、学年主任や管理者が評価のチェックを行っています。

L' s College おおさかは、「学び」の評価について、在籍者及び保護者と共有し、さらなる「学び」につなげるための必要不可欠なものであると考えています。それによって、在籍者の真の「学び」、すなわち成長につながるのです。

V-VII. L' s College おおさか修了者の進路状況について

L' s College おおさかの進路は、以下のとおりです。

L' s College おおさか修了者の進路状況について

	就職	大学等	就労継続A型	就労移行	就労継続B型	訓練校等	L' s College Plus	その他
平成 28 年度				1名			7名	
平成 29 年度	2名	1名	1名	1名	1名	1名	11名	

V-VIII. 職員体制について

L' s College おおさかでは、在籍者の課題に焦点をあてた、個別指導を実現するため、家庭との連携を特に重視しています。そのため、保護者との連携を重視した、クラス担任制を採用しています。生活面や学習面を把握している担任がいることで、保護者にとって、これまでの学校生活と同等の安心感を持ってもらうことをめざしています。そのためには、職員の資質やスキルの向上が欠かせません。そのため、人事評価及び職員研修、あるいは責任者との連携については、十分な配慮をしています。

i. 職員配置体制について

職員配置については、障害者総合支援法の基準では、利用者7名に対して職員1名を配置することとされていますが、L' s College おおさかでは、クラス担任制を採用しているため、10名を1クラスと

し、それぞれのクラスに担任と副担任の2名を配置しています。したがって、1人の職員が5名程度を担当しています。加えて、職員の技術向上のために、特別支援学校での教員としての従事経験がある者をアドバイザーとして採用しています。

ii. 各職員の役割について

役職	役割	取得資格	人数
管理者(校長)	L' s College おおさかの全体把握と課題の分析、対外的な対応、必要に応じた家族対応、入学希望者の対応 等 ※プログラム内容や保護者対応等の全般的なアドバイザー	教員免許	1名
副管理者(副校長)	L' s College おおさかの全体把握と課題の分析、プログラム内容の助言、家族対応の助言、入学希望者の対応 等 ※プログラム内容や家族対応等へのアドバイザー	教員免許	1名
サービス管理責任者	プログラム内容の統括、障害者総合支援法による事務手続き、学校説明会等の対応	社会福祉士	1名
生活支援員(担任)	生徒の生活面や学習面等の支援、日常的な家族対応、プログラム運営 等	教員免許 社会福祉士 資格なし	1名 1名 2名
生活支援員(副担任)	生徒の生活面や学習面等の担任の補助、日常的な家族対応、プログラム運営 ※学習面や生活面に対する支援方法についてのアドバイザー	教員免許	1名 1名

iii. 職員等に求められる経験やスキル

(i) 支援学校教員経験の複数名設置

障がい特性を把握し、年間を通じた「学び」の課題設定を行うプログラムを実施していくためには、特別支援学校での教員経験が求められます。また、特別支援学校の教員経験がなくとも、教員免許所持者の複数配置は必要です。

(ii) 福祉人材

障がい福祉サービスをベースとした「学び」を提供しているため、社会福祉士等の有資格者並びに福祉関係事業所等における勤務経験(3年以上)が求められます。

iv. 職員間の連携について

毎週火曜日と金曜日には、職員の全体会議を実施し、各クラスの状況等を共有しています。管理者や副責任者、サービス管理責任者からのアドバイザーに加え、教科会議や学年会、クラス等の打ち合わせを行っています。

v. 人事評価について

年度当初に職員それぞれの目標設定を行うとともに、職員面談を実施し、10～11月頃にも面談を行います。

V-IX. L' s College おおさかにおける「学び」を継続させるために

必要であると考えられる条件設定について

i. 「学び」の評価等と公開の実施

(i) 「学び」の評価等の実施

「学び」としての目的と方向性について、在籍者及び保護者と、「学び」の個別支援計画を共有することが必要です。

(ii) 多面的な「学び」の評価

「学び」の評価は、社会での生活力を多面的に行う必要があります。

(iii) 評価の共有

評価を在籍者及び保護者としっかりと共有する必要があります。このため、個別面談を年間に複数回設け、「学び」について意見交換を行う必要があります。

(iv) 「学び」の公開

保護者に「学び」を公開し、その意見を得る機会を設けることが必要です。L' s College おおさかでは、保護者がインターネット上で動画が見られるようにしています。

(v) いわゆる「入学」（在籍）に際しての事前説明等

「学び」の内容を「入学」前に十分に説明をする必要があります。

(vi) 「学び」の基本指針や理念の明確化

「学び」についての基本指針や理念を明確にし、その内容を具体的に在籍者及び保護者にしっかりと説明する必要があります。

ii. 在籍者並びに保護者の意見の公開

在籍者や保護者の意見を把握し、個別情報に十分に配慮しながら、「学び」の質の向上を図る必要があります。

iii. 実施プログラムについて

iii-i. 週間プログラムについて

(i) 自立への学びの明確化

「学び」において、社会自立に向けた指針を定める必要があります。

(ii) 週間プログラムの詳細と目的の公開

週間プログラムの詳細と目的を公開する必要があります。

(iii) コミュニケーションの学びと数的な力の学びの設置

コミュニケーション力や、金銭等の数的な力についての「学び」が必要です。

(iv) 芸術系や運動系の学びの設置

芸術系や運動系のプログラムの「学び」も必要です。

(v) 社会への関心が持てる取り組み

自ら情報を取得していくための「学び」も必要です。

iii-ii. 年間行事について

(i) 年間行事計画の公開

年間を通じた行事計画を広く公開することが必要です。

(ii) 大学等との連携について

大学等との連携の確保が望ましいと考えます。それにより、職員だけではなく、専門的な知識に係る「学び」確保することができます。

iv. 緊急対応の公開

福祉サービスをベースとする以上、緊急対応及び感染症対策のマニュアルの作成し、緊急の際の保護者等連絡方法及び確保が必要です。また、虐待防止や人権等の課題解決ための窓口の周知が必要です。

v. 職員研修等の体制

(i) 年間を通じた職員研修体制の整備

職員資質及び専門性の向上を図り、人権研修は勿論、障がい特性等に関する広い知見を得るための(大阪府等で実施されている研修講師等の活用)研修計画が行うことが必要です。

(ii) スーパービジョン体制の確立

学年や教科等、担当を明確にし、経験のある指導者が支援方法や支援スキル等について、スーパービジョンを行う体制の確立が必要です。

V-X. L' s College のめざす 4 年間の学び

i. L' s College(L' s College おおさか・L' s College Plus) 設立の背景

L' s College おおさかは、平成 27 年 4 月に知的障がいのある人の高等学校卒業後の学びの場として開設しました。これまで、知的障がいのある人の高等学校卒業後の進路は、就労もしくは福祉的就労、生活介護等の福祉サービスに限られてきたと認識しています。「なぜ高校を卒業してすぐに就職しなければならないのか」「発達がおだやかな子どもだからこそ、しっかりと準備し社会へ巣立たせてやりたい」という保護者の切実な声や、「障がいがあってももっと学びたい」という当事者の願いを実現するために開設しました。

L' s College おおさかは、今年度で開設 4 年目を迎え、延べ 70 名が通所し、30 名が修了しました。

また、平成 29 年 4 月に開設した L' s College Plus では、多様な職業体験や実習の機会を設けることで、実践的に「働くための学び」を深めています。

以下に、L' s College の 4 年間における学びの目標を示しています。

ii. L' s College おおさかにおける 2 年間の目標

《1年め》

4月	5月	6月	7月	8月	9月
新しい環境に慣れ、個々の力を発揮するための支援計画の策定を行う。個別の力を把握し、学習グループや支援方針を決定する。			学習場面や体験的な活動場面において、集団行動や協調性、自己の表現の向上を目指す。また、課題に対する意欲や集中力を養う。		
10月	11月	12月	1月	2月	3月
交流学习や外部との連携より、他者との関わりを楽しみ、集団活動を通じて、達成感や充実感を感じる。また、前期試験を通じて、課題に対する持続力と集中力を養う。			儀式的な学習(成人の集いや学習発表会)に主体的に参加することで、自らの役割や責任を感じる。また、発表場面において、自己を表現できるようになる。		

《2年め》

4月	5月	6月	7月	8月	9月
儀式的な学習(入学式やオリエンテーション等)に主体的に参加し、役割と責任を持つことで、上級生としての意識を養う。また、修学旅行を体験することで、より深い友人関係の構築に努める。			新入生の入学により、上級生としての自覚を持つことで、主体的な役割を意識し、集団行動や協調性、自己の表現の向上を行う。また、後輩と関わりを持つことで、コミュニケーションのさらなる深化を図る。		
10月	11月	12月	1月	2月	3月
L' s College おおさか修了後の進路を考え、次のステップへの自覚を促す。また、交流学习や外部との連携を通じて、主体的な役割を意識し、他者との関わりを楽しめるようになる。			儀式的な学習(成人の集いや修了研究発表会、修了式等)を通じて、社会のルールや礼儀の大切さを学び、自分なりに気持ちを表現できるようになる。また、学習の集大成として、2年間の学びの成果を得られるようにする。		

iii. L' s College Plus における 2 年間の目標

《1年め》

4月	5月	6月	7月	8月	9月
社会の仕組みや様々な職業について知り、社会で必要なマナーやルールについて学ぶ。また多様な交流の機会を通じて、社会経験を積み、対人関係スキルの向上を図る。加えて、働くための心と体を育成するために、作業学習を取り入れる。					
10月	11月	12月	1月	2月	3月
社会生活に必要な学習を講座として実施し、社会自立に向けた学びを継続するとともに、室内作業及び施設外での清掃作業を通じて、働く意識と体を養う。また、店舗体験により、接客の体験や、アイロン、衣服の取り扱い等、生活力の向上に向けた取り組みを強化する。					

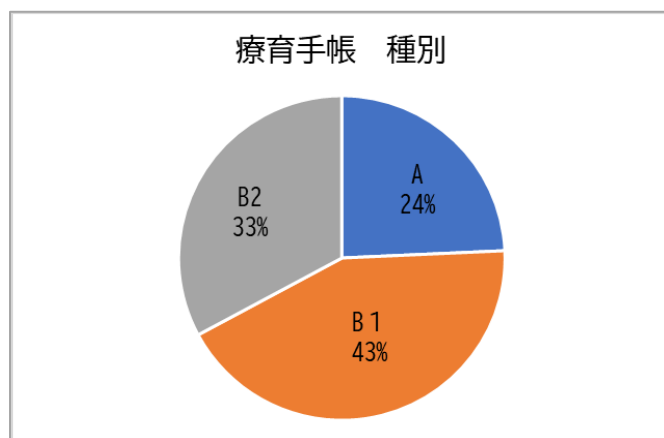
《2年め》

4月	5月	6月	7月	8月	9月
学習プログラムに外部講師を招くなど、学びをステップアップさせる中で、主体的に行動できるような工夫を行い、学びの質を深化させる。また、グループや個別での実習の機会を増やすことで、社会体験や就労実習の深化を図る。					
10月	11月	12月	1月	2月	3月
修了後の進路相談を通じて、自身の将来を考える機会を持つ。グループ及び個別での実習の質を高めることで、就労に対する意識付けを行う。			修了後の進路を意識し、企業実習等を行うことで、働くことへの意欲と自信を高める。また、自分に合った社会参加の方法を考え、働くための準備を整える。		

L' s College は、障がいがある人が成長することのできる「学びの場」とするため、自立訓練の2年間と就労継続支援B型(L' s College Plus)の2年間を活用しています。これにより、4年間を一つの連続したシステムとして構築し、個々の成長に寄り添ったものとするのがねらいです。そうすることで、個々に応じた学習や、社会的体験を通じて、自立した社会生活を送るための準備、すなわち「学び」を確保することができます。しかし、異なる福祉サービスを組み合わせてのプログラムを提供している現状では、後述のような課題もあります。

V-XI. L' s College おおさかの今後の課題

i. L' s College おおさかの現状



L' s College おおさかの在籍者は、療育手帳種別で見ると、Aが24%、B1が43%、B2が33%となっています。

そして、何よりもL' s College おおさかを選択した保護者は、18歳で社会に出ていくのは、まだ早い、障がいのある子どもたちが高等学校等を卒業して、すぐに社会に出て働くことに対し、「納得したくない」と面談の中で訴えられます。また、「子どもたちが社会に出ていく中で、どのような生活を送るのが見えてこない」と

も訴えられます。L' s College おおさかは、これらの保護者の思いに寄り添うための2年間を提供しています。

特別支援学校は、概ね地域の校区から離れており、日常的に家庭と学校の往復以外に活動の場が少なく、活動の場が限られています。幅広い様々な体験は、人の成長にとって大切なことです。私たちL' s College おおさかは、様々な体験の重要性に着目し、意図的に多くの体験を味わってもらうことで、成長を促しています。この観点から、今後の取り組みに生かしていきたいと考えています。

ii. L' s College おおさかの課題

(i) 自分で考え自分で行動するプログラムの強化

L' s College おおさかの在籍者は、まず「自分で考え自分で行動すること」を自然と身につけられるよう、工夫しています。と同時に、日々の学習活動や行事をさらに精査し、在籍者が選択的な行動をとれるよう、また、その機会を意図的に提供できるように工夫することが必要と考えています。在籍者が、後輩と交流や指導する場面や、生徒会役員が、今以上にリーダーシップを発揮できる場面の設定、行事計画を実行に移す際の主体的な取り組み方等、「自分で考え自分で行動する力」が育まれるよう、サポートしていく必要があると考えます。

(ii) 多面的なプログラムの更なる展開

L' s College おおさかでは、多面的なプログラムを採用することで、個の力が伸ばせると考えています。一方、多方面の学びを精査し、在籍者にとって学びやすく、効果的な学習の在り方を常に求めていく姿勢も必要だと考えます。

このため、L' s College おおさかでは、4年間を一連の「学び」の流れと捉え、本人・保護者が選択できるコース制の設置を検討します。

(iii) 生涯学習の場の創設

L' s College おおさかのプログラムとしては、国語や数学、社会、理科、家庭科あるいは、音楽や芸術、スポーツ的な取り組みなど多岐にわたっています。これらの取り組みを、さらに充実して、生涯学習につなげていくこと大切であると考えています。

(vii) 制度上の課題

L' s College おおさかは、「学び」の場に最も適しているサービスとして自立訓練を活用し、基礎的な「学び」の2年間のプログラムを提供するとともに、L' s College Plusとして、就労継続B型を活用し、さらに社会自立に向けた「学び」の2年間のプログラムを提供しています。

L' s College Plusにおいて、就労移行支援サービスではなく、就労継続B型を活用している理由は以下のとおりです。

- ① 就労移行支援サービスは利用期間が、概ね2年間と定められており、一旦利用した後、すぐに就職できなかつたり、不本意にも離職してしまった時などは、再び同じサービスを利用できない場合があるからです。
- ② 就労移行支援サービスは、働くだけでなく、働き続けるためのサポートを提供してくれます。ただ、サービスの提供期間が決められているなどの条件設定があるため、L' sCollege おおさかとしては、就労移行支援サービスは、就職のための最終的な就労訓練の場ととらえています。
- ③ そして私たちは、L' sCollege おおさかの2年間をホップ、L' sCollegePlus の2年間をステップ、就労移行支援の2年間をジャンプと捉え、L' sCollege おおさかの在籍者は、このホップとステップの準備期間を充実して、ジャンプに挑戦してもらいたいと考えています。

そのため、L' s College Plus の2年間は、就労移行支援を活用せずに、就労支援B型を活用して

います。

しかしながら、就労継続B型を活用する場合でも、下記のような課題があります。

- ① 就労支援B型では、一定の工賃収入を求められること。
- ② 企業実習などを実施する期間は、工賃収入として算定できないこと。
- ③ 工賃収入の基準を満たすためには、1週間の半分以上は作業にあてる必要があること。
- ④ 工賃維持のためには、外注の作業を積極的に受ける必要があり、その内容によっては、納期や週替わりで作業の変更が生じ、「学び」としての時間や質の確保が難しいこと。

L' s College Plus では、基礎的な「学び」を社会自立に向けた「学び」にステップアップしていくことをめざしていますが、グループや個別での企業実習に割く時間が確保しにくくなっています。

このため、L' s College おおさかと L' s College Plus の4年間を自立訓練事業で活用できれば、基礎的な「学び」と社会自立に向けた「学び」を連続した4年間の学びとして提供できると考えます。

VI. 平成 30 年度「障がい者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」－支援学校卒業後の多様な学習等の場づくりプロジェクト（L' s College おおさかと府立大学との連携）－

取組みの概要等

(概要)

L' s College おおさか（一般社団法人エル・チャレンジ）在籍者と大阪府立大学が連携し、交流・共同学習プログラムを実施し、その有効性を検証するとともに、「支援学校卒業後の大学との連携プログラム」の開発を行った。

(実施主催) L' s College おおさか（一般社団法人エル・チャレンジ）、大阪府立大学

(日時) 平成 30 年 10 月 27 日（土）

(場所) 大阪府立大学羽曳野キャンパス

(プログラムの内容等)

○大阪府立大学羽曳野キャンパスでの交流

大阪府立大学羽曳野キャンパスでは、府立大学の医療系（主として看護師等）の学生が学んでおり、キャンパスが比較的小規模であり、学園祭「杏樹祭」を交流の場とすることで、お互いが共に交流しやすいと考えた。そして、大阪府福祉部障がい福祉室自立支援課と大学事務局、学生自治会、L' s College おおさかとで検討を図ね、以下の三点について取組んだ。

- ① 大学構内で L' s College おおさかの作品展示を行う。
- ② 大学祭の舞台上で、L' s College おおさかが団体演技を披露。
- ③ 大阪府立大学生と L' s College おおさか 在籍者が協力して模擬店を運営。



当日は、作品展示や団体演技、模擬店の共同開催等、L' s College おおさか 在籍者にとって、とても貴重な経験となった。最初は、お互いに戸惑ったが、世代が同じということもあり、すぐに打ち解けて模擬店の協力や作品展示の説明等、リラックスして案内ができた。また、団体演技披露では、エルズ・カレッジ 在籍者は緊張しながらもやり遂げることができた。

「自信につながった」「もっと練習して、また発表したい」などの声があり、観客からは、「非常に迫力があつた」と好評を博した。

今回の取組みを通して、障がいのある人とない人の交流の場ができ、その中で、お互いが協力して取り組む経験を得ることができた。この点、本プログラムの有効性を確認できた。



Ⅶ. まとめ

今回の調査結果を踏まえ、今後、以下の取組みが必要であることを提言します。

(1)進路の選択肢として、就労と同程度に、就労前の成長の場を望む保護者の声があること

支援学校卒業後の「学びの場」に関する取組みを普及促進していく必要があります。

そのためには、私たちL's College おおさかのように、障がい者福祉事業をベースとしながら、学校型のサービスを提供することにより、利用者である障がい者の成長と就労後の確実な定着を期していく取組みが効果的です。

また、「学びの場」としての水準を十分に確保できるような取組みに関しては、障がい者福祉事業等に関する規制をある程度緩和する等の措置を講じることも必要です。

(2)「学びの場」に関する取組みについて、保護者や生徒にしっかりと情報を行き渡らせる必要があり、
「学びの場」への期待は、多様であること

L's College おおさかの検証を通じて得られた、「学びの場」として求められる次の項目について、府のホームページなどを通じて、情報公表をする仕組みを整えていく必要があります。

【「学びの場」として求められる項目】

- ①「学びの場」に対する理念や考え方
- ②年間を通じた「学び」の計画や週ごとの時間割、到達目標、利用者の到達状況の評価など
- ③職員の人数、体制、役割、資格等の状況
- ④保護者や利用者の参画（いわゆるPTAに相当するもの）や交流など
- ⑤進路の状況

また、「学びの場」への期待は多様であり、より多くの選択肢を確保する観点から、上記の項目に関しては、それぞれの障がい者福祉事業所等における取組みをしばるものではなく、保護者や生徒の選択に資するための情報を公表することを基本とします。

一方で、すべての項目について情報公表可能な取組みを実施している場合は、「学びの場」における、いわゆる「卒業証書」への公的なクレジット表記等を認めるなどの措置を講じることも必要です。

これらにより、障がい者の支援学校卒業後の「学びの場」と多様な進路や就労における確実な定着に結び付けていくべきです。

平成30年度 文部科学省委託事業
「障がい者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」
保護者アンケート

※ このアンケートは、知的障がい対象の特別支援学校高等部3年生の保護者の皆様をお願いするアンケートです。

※ アンケートは、無記名で個人を特定されるものではありません。また、調査目的以外には使用いたしませんので、ご協力をお願いいたします。

その他の項目には、必要に応じてご記入いただきますよう、お願いいたします。

(1) 療育手帳について可能であれば、該当する項目に○をつけてください。

A() B1() B2() その他()

(2) お子様の支援学校卒業後の進路希望についてお聞きします。

現時点で、検討されている進路先がありましたら、○をつけてください（複数回答可）。

①企業への就職	
②就労移行支援事業所	
③就労継続支援A型	
④就労継続支援B型	
⑤自立訓練や生活介護などの就労系以外の障がい福祉サービス	
⑥高等技術専門校等の訓練校	
⑦支援学校卒業後の「学びの場」（障がい福祉サービスを活用したものを含む）	
⑧まだ検討していない	
⑨その他 ()	

(3) 支援学校卒業後の進路の決定について、何がポイントになりましたか。該当する項目(3つまで)に○をつけてください。

①実習先(就職先)を子どもが気に入った	
②実習先(就職先)の雰囲気がいいので安心	
③卒業後すぐに就職してほしい	
④障がい福祉サービスの内容を子どもが気に入った	
⑤働く準備をしっかりとってから社会に出てほしい	
⑥訓練内容が子どもにあっている	
⑦もっと色々なことを体験したり、学んだりしてほしい	
⑧ゆっくりとした居場所で楽しみを見つけてほしい	
⑨見学や体験を経験する中で子どもにあっていた	
⑩その他 ()	

(4) 支援学校卒業後の進路先として学びの場(例えば、L' s College おおさかのような)の存在について、情報として把握されてきましたか。該当する項目に○をつけてください。

①よく知っている	
②聞いたことはあるが、よく知らない	
③知らなかったが、詳しく知りたい	
④知らなかったし、興味や関心はない	

⑤その他

(

)

(5) 支援学校卒業後の学びの場について、どのような内容を期待しますか。特にあてはまるとお考えになる項目(3つまで)に○をつけてください。

①子どもが楽しんで学べる取り組み	
②社会自立に向けた学習のプログラムがあること	
③働くためのスキルを学べる取り組み	
④文化・スポーツ等を組み入れた学習の取り組み	
⑤行事や体験的な取り組みを、定期的に取り入れること	
⑥学習の評価を示して、成長を確認できるような取り組み	
⑦その他 ()	

(6) 支援学校卒業後、お子様が社会人として生活していくためにはどのような力が必要だと考えますか。特にあてはまるとお考えになる項目(3つまで)に○をつけてください。

①人とのコミュニケーション力	
②日常生活における身辺自立の力	
③日常生活における必要な知識や学力	
④課題に対する集中力や持続力	
⑤公共の交通機関等を利用する力	
⑥余暇を楽しむことができる力	
⑦自分の感情をコントロールする力	
⑧自分の気持ちを表現する力	
⑨自分の行動を振り返る力	
⑩自分で考えて、行動する力	

⑪周囲の状況を理解し、行動できる力	
⑫その他 ()	

※ アンケートはこれで終了です。

ご協力いただきありがとうございました。

なおアンケートは、お渡しさせていただいた封筒に封をして、平成30年9月28日(金)までに連絡帳等を通じて学校に提出いただきますよう、お願いいたします。

※ 本アンケートについて、ご不明な方は下記までご連絡ください。

事業所名： L' s College おおさか(エルズカレッジ おおさか)

住 所： 大阪市浪速区木津川2丁目3-8 A' ワーク創造館

T E L： 06-6561-7730

F A X： 06-6561-7733

担 当 者： 辻 行雄 ・ 赤松 果歩

在籍者保護者アンケート調査

※アンケートは無記名で個人を特定するものではありません。またアンケート調査以外には使用いたしませんので、ご協力をお願いいたします。

その他には、簡単に内容を記述してください。

(1) 入学年度に○をつけてください。

- ① 平成29年度() ②平成30年度()

(2) 高等学校在籍時にL's College おおさかを何で知りましたか。

該当する項目に○をつけてください。

① 学校からの紹介	
② 他の保護者からの口コミ	
③ インターネット等の検索	
④ その他 ()	

(3) L's College おおさかへ入学の決め手について、該当するものに○をつけてください。

(複数回答可)

① 学校からの紹介だったから	
② L's College おおさかの取り組みの内容に共感したから	
③ 学習を延長できる学びの場を探していたから	
④ 就職(社会的就労も含む)するにはまだ早いと思っていたから	
⑤ 体験入学がお子様に合っていたから	
⑥ 他に進路先が見つからなかったから	
⑦ その他 ()	

(4) L's College おおさかでの学びにおいて、現時点での総合的な満足度についてお聞きします。

該当する項目に○をつけてください。

- ① 大変満足() ②満足() ③やや不満足() ④不満足()

(5) お子様は楽しんでL' s College おおさかに通われていますか。

該当する項目に○をつけてください。

- ① 楽しんでいる() ②普通() ③楽しんでいない()

(6) L' s College おおさかでの取り組みにおいて、期待する点について、○をつけてください。

(複数回答可)

① 教科カリキュラムの内容の充実	
② 校外での学習や体験型のプログラムの充実	
③ 日常生活に役立つ力の育成	
④ 個々に寄り添ったサポート	
⑤ ご家族と連携したサポート	
⑥ 進路情報の共有や進路指導のサポート	
⑦ 職員の支援のスキルや専門性	
⑧ L' s College おおさか独自の学習評価システムの充実	
⑨ その他 ()	

(7) L' s College おおさかの学校行事において、取り組みを期待する学校行事に○をつけてください。

(複数回答可)

① 入学式	
② 校外学習 ※年2回の遠足	
③ 生徒会選挙	
④ 修学旅行	
⑤ 成人式	
⑥ 学習発表会	
⑦ 修了式	
⑧その他 ()	

(8) お子様の成長において、どのような力が伸びることを期待しますか。

該当する項目に○をつけてください。(複数回答可)

① 人とのコミュニケーション力	
② 周囲の状況を理解し、行動できる力	

③ 自分で考えて、行動できる力	
④ 自分の感情をコントロールする力	
⑤ 自分の気持ちを表現する力	
⑥ 自分の行動を振り返る力	
⑦ 日常生活に必要な知識や学力	
⑧ 日常生活における身辺自立の力	
⑨ 公共の交通機関等を利用する力	
⑩ 課題に対する集中力や持続力	
⑪ 余暇を楽しむことができる力	
⑫ 特に何も思わない	
⑬ その他 ()	

(9) 自由記述 その他何かありましたら、ご自由にご記入ください。

ご協力いただきありがとうございました。

いただいたご意見は今後の取り組みの参考とさせていただきます。

修了者保護者アンケート調査

※アンケートは無記名で個人を特定するものではありません。またアンケート調査以外には使用いたしませんので、ご協力をお願いいたします。

その他には、簡単に内容を記述してください。

(10) 修了年度に○をつけてください。

- ① 平成28年度() ②平成29年度()

(11) 高等学校在籍時にL's College おおさかを何で知りましたか。

該当する項目に○をつけてください。

① 学校からの紹介	
② 他の保護者からの口コミ	
③ インターネット等の検索	
④ その他 ()	

(12) L's College おおさかへ入学の決め手について、該当するものに○をつけてください。

(複数回答可)

① 学校からの紹介だったから	
② L's College おおさかの取り組みの内容に共感したから	
③ 学習を延長できる学びの場を探していたから	
④ 就職(社会的就労も含む)するにはまだ早いと思っていたから	
⑤ 体験入学がお子様に合わせていたから	
⑥ 他に進路先が見つからなかったから	
⑦ その他 ()	

(13) L's College おおさかでの二年間の総合的な満足度についてお聞きします。

該当する項目に○をつけてください。

- ① 大変満足() ②満足() ③やや不満足()
④不満足()

(14) L's College おおさかでの二年間において、お子様は楽しんで通学されていましたか。

該当する項目に○をつけてください。

- ① 楽しんでいた() ②普通() ③楽しんでいなかった()

- (15) L' s College おおさかでの取り組みにおいて、よかったと思う点について、○をつけてください。(複数回答可)

① 教科カリキュラムの内容	
② 校外での学習や体験型のプログラム	
③ 日常生活に役立つ力の育成	
④ 個々に寄り添ったサポート	
⑤ ご家族と連携したサポート	
⑥ 進路情報の共有や進路指導のサポート	
⑦ 職員の支援のスキルや専門性	
⑧ L' s College おおさか独自の学習評価システム	
⑨ その他 ()	

- (16) L' s College おおさかの取り組みにおいて、不足していると思う点について、○をつけてください。(複数回答可)

① 教科カリキュラムの内容	
② 校外での学習や体験型のプログラム	
③ 日常生活に役立つ力の育成	
④ 個々に寄り添ったサポート	
⑤ ご家族と連携したサポート	
⑥ 進路情報の共有や進路指導のサポート	
⑦ 職員の支援のスキルや専門性	
⑧ L' s College おおさか独自の学習評価システム	
⑨ その他 ()	

- (17) L' s College おおさかの学校行事において、よかったと思う学校行事について、○をつけてください。(複数回答可)

① 入学式	
② 校外学習 ※年2回の遠足	
③ 生徒会選挙	
④ 修学旅行	
⑤ 成人式	

⑥ 修了研究発表会 ※平成28年度卒生は修了式での修了発表	
⑦ 修了式	
⑧その他 ()	

- (18) L' s College おおさかの学校行事において、もっと取り組みを深めてほしかった行事について、○をつけてください。(複数回答可)

① 入学式	
② 校外学習 ※年2回の遠足	
③ 生徒会選挙	
④ 修学旅行	
⑤ 成人式	
⑥ 修了研究発表会 ※平成28年度卒生は修了式での修了発表	
⑦ 修了式	
⑧その他 ()	

- (19) L' s College おおさかでの二年間において、お子様の成長を感じられることはありましたか。該当する項目に○をつけてください。

① 感じられる	
② もっと成長できたと思う	
③ 感じられない	
④ 特に何も思わない	

- (20) お子様の成長において、どのような力が伸びたと思いますか。該当する項目に○をつけてください。(複数回答可)

① 人とのコミュニケーション力	
② 日常生活における身辺自立の力	
③ 日常生活に必要な知識や学力	
④ 課題に対する集中力や持続力	
⑤ 公共の交通機関等を利用する力	
⑥ 余暇を楽しむことができる力	
⑦ 自分の感情をコントロールする力	
⑧ 自分の気持ちを表現する力	
⑨ 自分の行動を振り返る力	

⑩ 自分で考えて、自分で行動する力	
⑪ 周囲の状況を理解し、行動できる力	
⑫ 特に何も思わない	
⑬ その他 ()	

(21) 自由記述 その他何かありましたら、ご自由にご記入ください。

ご協力いただきありがとうございました。

いただいたご意見は今後の取り組みの参考とさせていただきます。

在籍者アンケート調査

※アンケートは無記名で個人を特定するものではありません。またアンケート調査以外には使用いたしませんので、ご協力をお願いいたします。

その他には、簡単に内容を記述してください。

(22) 入学年度に○をつけてください。

- ① 平成29年度() ②平成30年度()

(23) 高等学校在籍時にL's College おおさかを何で知りましたか。

該当する項目に○をつけてください。

① 学校からの紹介	
② 他の保護者からの口コミ	
③ インターネット等の検索	
④ その他 ()	

(24) L's College おおさかへ入学の決め手について、該当するものに○をつけてください。

(複数回答可)

① 学校からの紹介だったから	
② L's College おおさかの取り組みの内容に共感したから	
③ 学習を延長できる学びの場を探していたから	
④ 就職(社会的就労も含む)するにはまだ早いと思っていたから	
⑤ 体験入学がお子様に合っていたから	
⑥ 他に進路先が見つからなかったから	
⑦ その他 ()	

(25) L's College おおさかでの学びにおいて、現時点での総合的な満足度についてお聞きします。

該当する項目に○をつけてください。

- ① 大変満足() ②満足() ③やや不満足() ④不満足()

(26) お子様は楽しんでL' s College おおさかに通われていますか。

該当する項目に○をつけてください。

- ① 楽しんでいる() ②普通() ③楽しんでいない()

(27) L' s College おおさかでの取り組みにおいて、期待する点について、○をつけてください。

(複数回答可)

① 教科カリキュラムの内容の充実	
② 校外での学習や体験型のプログラムの充実	
③ 日常生活に役立つ力の育成	
④ 個々に寄り添ったサポート	
⑤ ご家族と連携したサポート	
⑥ 進路情報の共有や進路指導のサポート	
⑦ 職員の支援のスキルや専門性	
⑧ L' s College おおさか独自の学習評価システムの充実	
⑨ その他 ()	

(28) L' s College おおさかの学校行事において、取り組みを期待する学校行事に○をつけてください。

(複数回答可)

① 入学式	
② 校外学習 ※年2回の遠足	
③ 生徒会選挙	
④ 修学旅行	
⑤ 成人式	
⑥ 学習発表会	
⑦ 修了式	
⑧その他 ()	

(29) お子様の成長において、どのような力が伸びることを期待しますか。

該当する項目に○をつけてください。(複数回答可)

① 人とのコミュニケーション力	
② 周囲の状況を理解し、行動できる力	
③ 自分で考えて、行動できる力	
④ 自分の感情をコントロールする力	
⑤ 自分の気持ちを表現する力	
⑥ 自分の行動を振り返る力	
⑦ 日常生活に必要な知識や学力	
⑧ 日常生活における身辺自立の力	
⑨ 公共の交通機関等を利用する力	
⑩ 課題に対する集中力や持続力	
⑪ 余暇を楽しむことができる力	
⑫ 特に何も思わない	
⑬ その他 ()	

(30) 自由記述 その他何かありましたら、ご自由にご記入ください。

ご協力いただきありがとうございました。
いただいたご意見は今後の取り組みの参考とさせていただきます。

平成30年度 文部科学省委託事業
「障害者の多様な学習活動を総合的に
支援するための実践研究」報告書
ー文化芸術・スポーツプログラム編ー

平成31年3月

社会福祉法人大阪障害者自立支援協会

平成 30 年度「障がい者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究
－支援学校卒業後の多様な学習等の場づくりプロジェクト（文化芸術・スポーツプログラム）－

取組みの概要等

（概要）

- ・府立支援学校卒業見込み又は卒業後間もない者（エルズカレッジおおさか（一般社団法人エル・チャレンジ）在校生を含む。）を主な対象として、障がい者文化芸術・スポーツの中核拠点である「ビッグ・アイ（文化芸術）」・「ファインプラザ大阪（スポーツ）」の提供するプログラムの生涯学習の場としての有効性を検証するとともに、「支援学校卒業後の文化芸術・スポーツにおける多様な学習プログラム」の開発を行った。

（実施主体）

大阪障害者自立支援協会（国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）・大阪府立障がい者交流促進センター（ファインプラザ大阪））

（日時）

平成 30 年 11 月 17 日（土）13：00～16：00

（場所）

国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）

文化・芸術プログラム：「ビッグ・アイアート工房みずのみばスペシャル」

（テーマ）

「ずっと住みたいと思う街をつくる」をテーマに、巨大な紙にアクリル絵具・クレヨン・段ボールやボタン・布切れ・木の枝・パネル等を自由に用いて、参加者全員で彩色、組み立て創作活動をする。

（参加者）

- ・合計 39 名 事前申込分 19 名（障がいのある人 14 名）と同伴者 5 名、当日参加者 20 名
- ・事前申込分 19 名（障がいのある人 14 名）と同伴者 5 名に加えて、当日 20 名が追加で参加することとなり、障がいのある人とない人の交流の場ともすることができた。

（講師・スタッフ）

- ・講師 中津川浩章氏…美術家/アートディレクター
水野浩世氏…YELLOW・ビッグ・アイあーと工房みずのみば
山田健太郎氏…社会福祉法人ユウの家所属。立体作品製作講師。
松田豊美氏…アトリエ ペンライズ所属。（障がい者活動支援通所サービス）
- ・スタッフ 記録者及び看護師 各 1 名、ボランティアスタッフ 6 名
- ・講師として、美術家、アートディレクターの中津川氏に加え、福祉施設の絵画講師を勤める水野氏、社会福祉法人ユウの家所属の立体作品制作専門家である山田氏、及び障がい者活動支援通所サービス「アトリエペンライズ」講師の松田氏と、障がい者文化芸術分野のプロフェッショナルを招聘した。

作品制作にあたっては、講師から参加者へ、専門的な知見からのアドバイスや表現しやすいような声かけ、雰囲気づくりがあったため、3時間と長時間の活動にもかかわらず、参加者は、集中して作品づくりに取り組んだ。とりわけ、ボランティアスタッフのサポートが素晴らしく、重度の知的障がいのある参加者も安心して、作品づくりを行うことができた。

(プログラムの内容等)

- ・「ずっと住みたいと思う街をつくる」をテーマに、巨大な紙にアクリル絵具・クレヨン・段ボールやボタン・布切れ・木の枝・パネル等を参加者が自由に用いて、彩色、組み立て創作活動を実施。
- ・参加者全員で一つの大きな作品を制作することを作品づくりの目標として設定し、それぞれの参加者が、小さな作品を組み合わせていく経験、また、人が描いた作品の上には描かないなどの予め決めたルールをそれぞれの参加者がきちんと守るなど、連帯感や交流がみられた。
- ・参加者の集中力は途切れることはなく、講師からも、「表現すること」「創造すること」の力強さを感じることができたとの評価を得た。
- ・参加者からは、「楽しかった」「また参加したい」「作品を持ち帰ることができるのでうれしい」などの声があり、同伴者からも、「絵を描くことが本当に大好きなのですが、創作活動の場所を探しているがなかなかみつからない。このような機会があることが大変うれしい」「普段は、家族がつきっきりで付き添うことが多くてこれだけの長時間、見守りだけで過ごせるとは思わなかった」との声があった。
- ・障がいの有無にかかわらず、文化芸術を通して「表現」「創造」することは、その人の人生を豊かにする活動であり、今後もこれら活動の場が増え、障がいのある人たちが、文化芸術に親しめる機会を増加させていく上でも、本プログラムの有効性を確認できた。





スポーツプログラム：「からだを知ろう！動かそう！いろんな体験してみよう！」

(テーマ)

「からだを知ろう！動かそう！いろんな体験してみよう！」。体を動かし、仲間と一緒に活動することで、自分の体の状態や変化に気づき、また、その楽しさや心地よさを味わえるようなスポーツ活動を実施。

(参加者)

- ・参加者 26 名（内支援学校卒業生など障がいのある人 18 名）
- ・障がいのある人を主な対象としつつ、障がいのない人の参加も得たことにより、障がいのある人とならない人の交流の場ともすることができた。

(講師・スタッフ)

- ・講師 平山 くみ…舞踊療法士、絵画／舞踊療法を精神科総合病院にて実施。
平山 なを…ワークショップファシリテーター・ディレクター、発達障害コミュニケーション指導者
- ・スタッフ 健康運動指導士 1 名、スポーツ指導員 2 名、ボランティアスタッフ 14 名
- ・講師として、精神科総合病院等で舞踊療法を行う舞踊療法士の平山くみ氏と、発達障がい者へコミュニケーションを指導するなどの活動を行っている平山なを氏を招聘。加えて、健康相談やスポーツ相談のための健康運動指導士と障がい者スポーツ指導員を配置したこの他、ボランティアスタッフの参加を得た。

(プログラムの内容)

- ・当日は、『からだを知ろう！動かそう！いろんな体験をしてみよう！』をテーマに、からだづくり運動を実施した。ポーズをとりながらの自己紹介やボールがあると仮定したバスなど、参加者同士が交流できるよう工夫された運動プログラムであるとともに、指導者の動きや声かけがすばらしく、会場が笑いにつつまれるなど、参加者も積極的に参加できた。その他、好きな楽器を用いて自由に動いた、リラックスした状態でストレッチをする中で、参加者は、自身の体の状態に気づいたり、決められたルールを守りながら仲間と交流する楽しさを味わった。
- ・この他、プログラム内コーナーとして、「InBody（インボディ）測定～からだを知ろう！体成分を測定しよう～」や「パラスポーツ～見てみよう！さわってみよう！やってみよう！～」を実施した。
- ・参加者からは、「いろいろなスポーツがあるんだ」「みんなと体を動かすと楽しかった」「楽器を使ったのが楽しかった」「また参加したい」等の声があり、体を動かす楽しさを知ることができたこと、また、参加者保護者から、「安心して参加できるこのような場が身近にあれば続けさせたい」という声があった。
- ・支援学校を卒業した障がいのある人たちが、日常生活の中で、スポーツ活動に参加できる環境づくりを進めていくことは非常に重要であり、この点、本プログラムの有効性を確認できた。



まとめ

- ・今回の取組みにより、府立支援学校卒業見込み又は卒業後間もない者を主な対象としながら、障がいのない者の参加も得た、障がいのある人・ない人の交流の場の側面も持たせた、障がい者の生涯学習の場として、障がい者文化芸術・スポーツの中核拠点である「ビッグ・アイ（文化芸術）」・「ファインプラザ大阪（スポーツ）」のノウハウを活かした有効なプログラムの開発を行うことができた。
- ・今後、本プログラムをモデルとして、他の機関での実施のためのモデルとして普及促進していくことが可能である。
- ・なお、他機関への普及促進や継続的なプログラム展開には、相当の人材・資金が必要であり、この点、国による制度的な支援が不可欠である。